

[第 1 部] 「市民及び天城霊園墓所使用者に対する埋葬意識等に係る調査」

第 1 章 調査概要

1. 調査目的

伊東市民が墓地に求める傾向を把握するとともに、市営墓地の需要と、その求められる「形態」について、具体的な数も推計し、今後の市における墓地などのあり方についてなどを検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域・対象 静岡県伊東市。同市の住民票を有する者。市営天城霊園の使用者。
- (2) 抽出方法 ①：現在の住民基本台帳をもとに、50 歳以上の方の中から無作為に抽出した 1,000 人の方を対象。及び、②：現在の市営天城霊園の使用者名簿から、無作為に抽出した 200 人の方を対象(但し、年齢については特に考慮せず)。
- (3) 調査方法 郵送により、アンケート票の上記抽出対象者へ発送。回答アンケート票については郵送で回収(返信用封用は上記アンケート票と共に同封)。
- (4) 調査期間 令和元(2019)年8月5日～8月22日
- (5) 回収数 ①：469 回答(率 46.9%)。②：137 回答(率 68.5%)。

3. 集計結果の数字の見方

結果は百分率(%)で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計 100%ではないことがある。また、複数回答(2つ以上の回答)では合計が 100%を超える。「誤差」について。

【適用条件】

早見表の適用条件は、 $(N-n)/(N-1) \div 1$ N:母集団 n:標本

サンプル数と回答比率と誤差の早見表

サンプル数	回答比率				
	10%または90%	20%または80%	30%または70%	40%または60%	50%
10,000	± 0.6%	± 0.8%	± 0.9%	± 1.0%	± 1.0%
5,000	± 0.9%	± 1.1%	± 1.3%	± 1.4%	± 1.4%
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
500	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
100	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%

出典:IMPRESS「リサーチ/データのリテラシー入門」<http://web-tan.forum.impressrd.jp/e/2008/05/16/3080>

上記(2)①については上記の表から、 $(1000-469)/(469-1) = \pm 1.13\%$

(2)②については上記の表から、 $(200-137)/(137-1) = \pm 0.46\%$

今回のアンケート結果については、適時、以下のものと比較を行っている。

- 平成 25 年度厚生科学特別研究事業で得られた「全国」を対象とした調査結果
<http://www.zenbokyo.or.jp/H25tokubetukenkkyu-houkokusho.html>
- 墓地管理講習会テキスト「墓地の需要予測と計画」(公益社団法人 全日本墓園協会)

4 回答者の構成

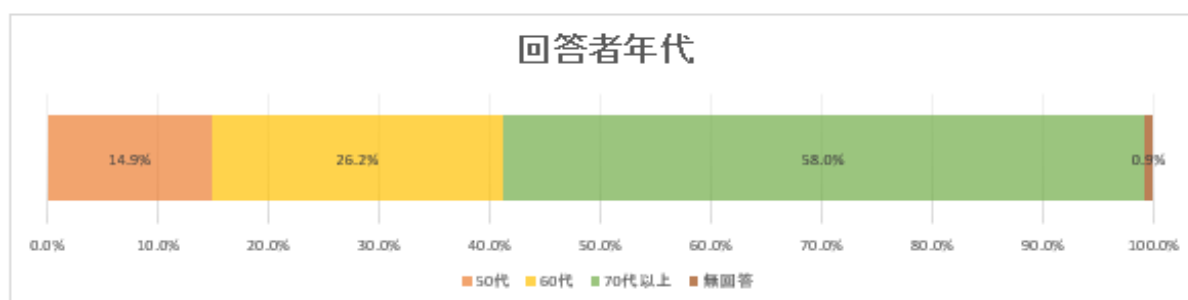
■回答者年代(齢)■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問1 あなたご自身は

1-1年代

50代	70	14.9%
60代	123	26.2%
70代以上	272	58.0%
無回答	4	0.9%
合計	469	100.0%

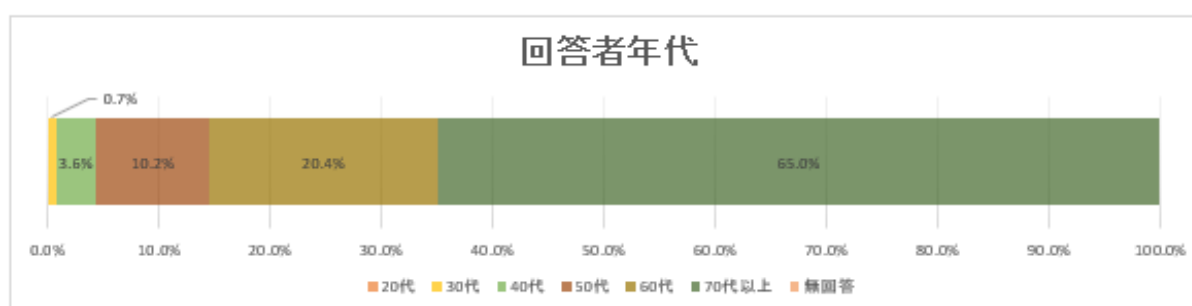


【天城霊園使用者】

問1 あなたご自身は

1-1年代

20代	0	0.0%
30代	1	0.7%
40代	5	3.6%
50代	14	10.2%
60代	28	20.4%
70代以上	89	65.0%
無回答	0	0.0%
合計	137	100.0%



【伊東市(天城霊園使用者外)市民】は、「第1章 調査概要」の「2. 調査の設計」でも示した通り「①：現在の住民基本台帳をもとに、50歳以上の方の中から無作為に抽出した1,000人の方を対象」とした。他方、【天城霊園使用者】は霊園使用者名簿より無作為に抽出されたもの。

「40代未満」以下は4%でなく、【伊東市(天城霊園使用者外)市民】の調査対象を50歳以上としたことの妥当性が確認された。

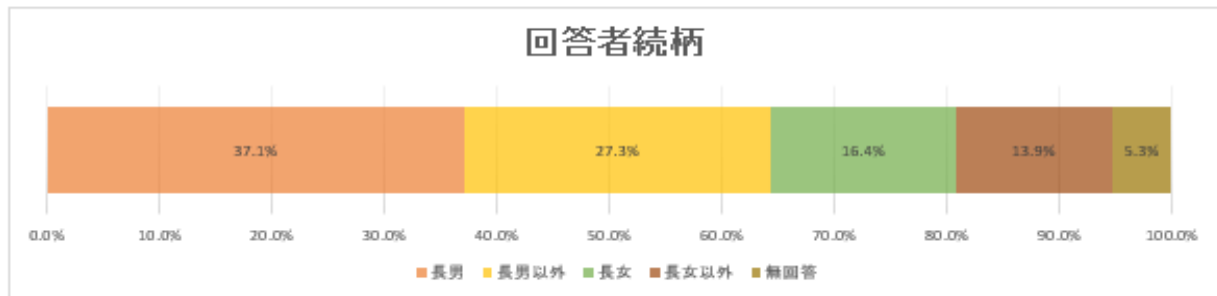
また、年齢の(特に高齢者の比率)の違いは「お墓」の保有の有無に起因していると思料される。

■回答者続柄■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

1-2 続柄

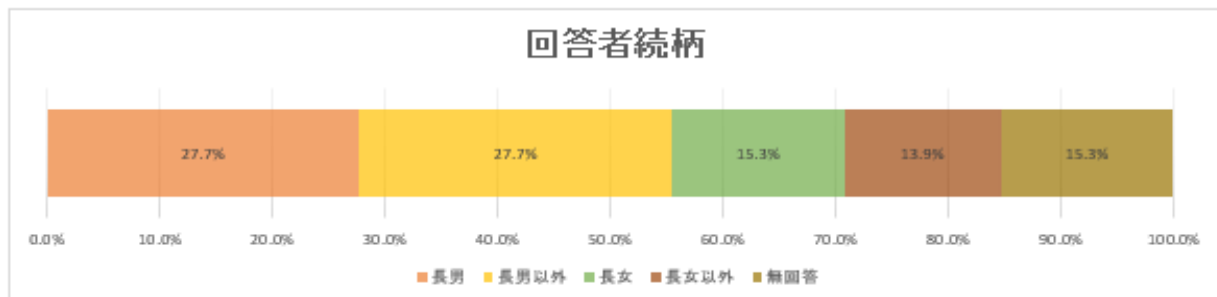
長男	174	37.1%
長男以外	128	27.3%
長女	77	16.4%
長女以外	65	13.9%
無回答	25	5.3%
合計	469	100.0%



【天城霊園使用者】

1-2 続柄

長男	38	27.7%
長男以外	38	27.7%
長女	21	15.3%
長女以外	19	13.9%
無回答	21	15.3%
合計	137	100.0%



【伊東市(天城霊園使用者外)市民】の回答者続柄より、「お墓」を有している【天城霊園使用者】の回答者続柄の方が「長男」続柄の比率が低いコトに目が留まる。

理由のひとつとしては、「無回答」が【伊東市(天城霊園使用者外)市民】では 5.3%であるのに対して、【天城霊園使用者】では 15.3%と、丁度、【伊東市(天城霊園使用者外)市民】と【天城霊園使用者】の「長男」続柄の差異と平仄が合う。

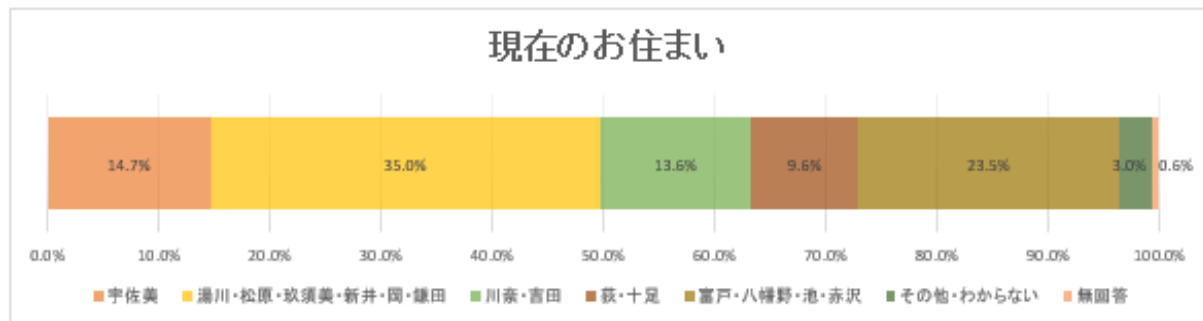
ただ、その他の続柄、「長男以外」「長女」「長女以外」の比率が【伊東市(天城霊園使用者外)市民】と【天城霊園使用者】との間に「有意な差異が認められない」ことにも目が留まる。「お墓」いわゆる祭祀財産は、必ずしも長子、男系相続とされているものではないが、現実には長子、男系相続が多い。伊東市及び地方の特性ともいえるであろうと思料される。

■現在のお住まい(居住地) ■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

1-4 現在のお住まい

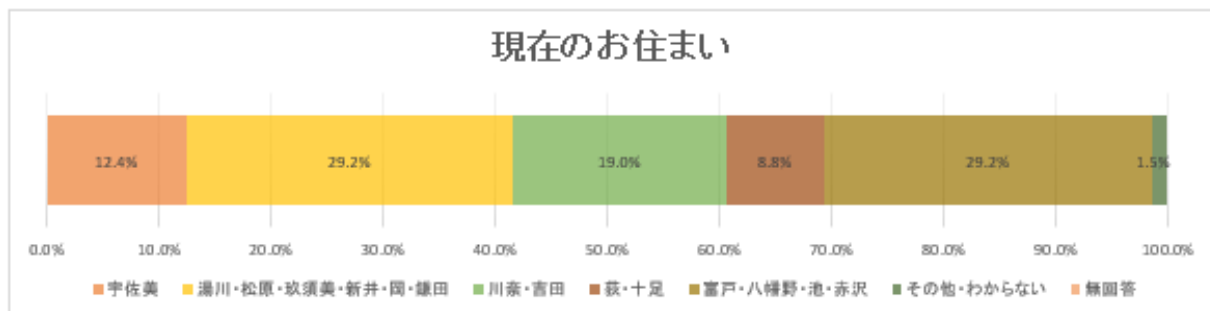
宇佐美	69	14.7%
湯川・松原・玖須美・新井・岡・鎌田	164	35.0%
川奈・吉田	64	13.6%
荻・十足	45	9.6%
富戸・八幡野・池・赤沢	110	23.5%
その他・わからない	14	3.0%
無回答	3	0.6%
合計	469	100.0%



【天城霊園使用者】

1-3 現在のお住まい

宇佐美	17	12.4%
湯川・松原・玖須美・新井・岡・鎌田	40	29.2%
川奈・吉田	26	19.0%
荻・十足	12	8.8%
富戸・八幡野・池・赤沢	40	29.2%
その他・わからない	2	1.5%
無回答	0	0.0%
合計	137	100.0%



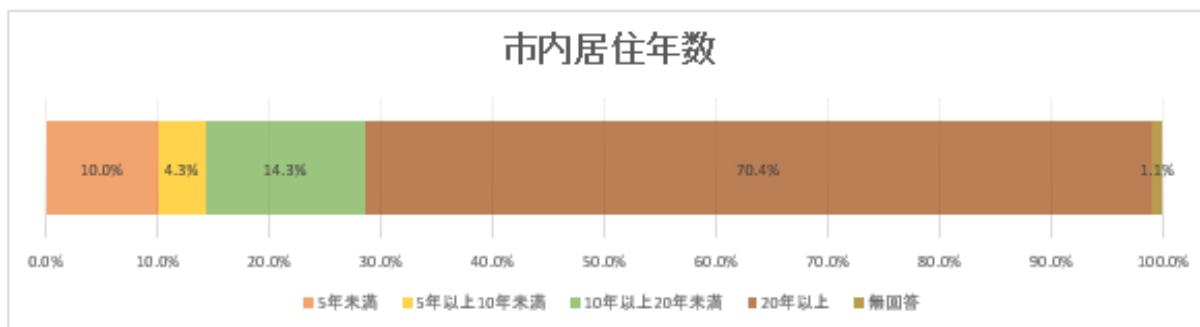
【伊東市(天城霊園使用者外)市民】と【天城霊園使用者】、各々の「居住地」を比較すると、「湯川・松原・玖須美・新井・岡・鎌田」地区と「川奈・吉田」地区では、5～6%の違いがみられる。が、総じて伊東市営「天城霊園」は【市民】の「居住地」比率をほぼ投影していると思料される。

■ (伊東市内) 居住年数 ■

【伊東市(天城霊園使用者外) 市民】

1-5 市内居住年数

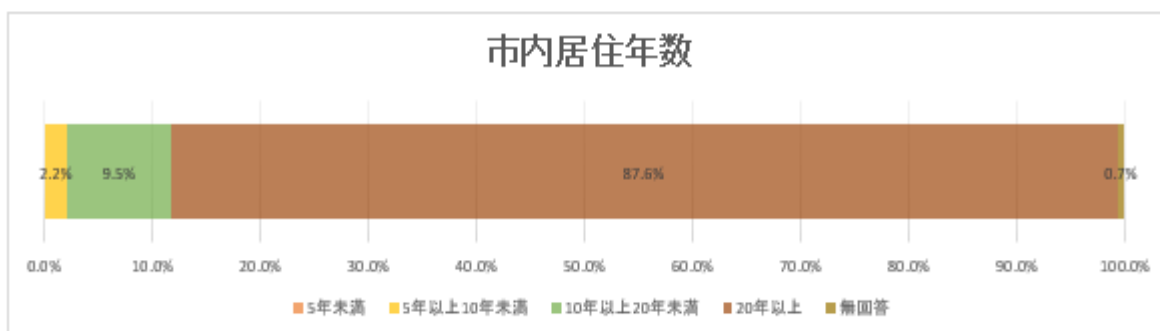
5年未満	47	10.0%
5年以上10年未満	20	4.3%
10年以上20年未満	67	14.3%
20年以上	330	70.4%
無回答	5	1.1%
合計	469	100.0%



【天城霊園使用者】

1-4 市内居住年数

5年未満	0	0.0%
5年以上10年未満	3	2.2%
10年以上20年未満	13	9.5%
20年以上	120	87.6%
無回答	1	0.7%
合計	137	100.0%



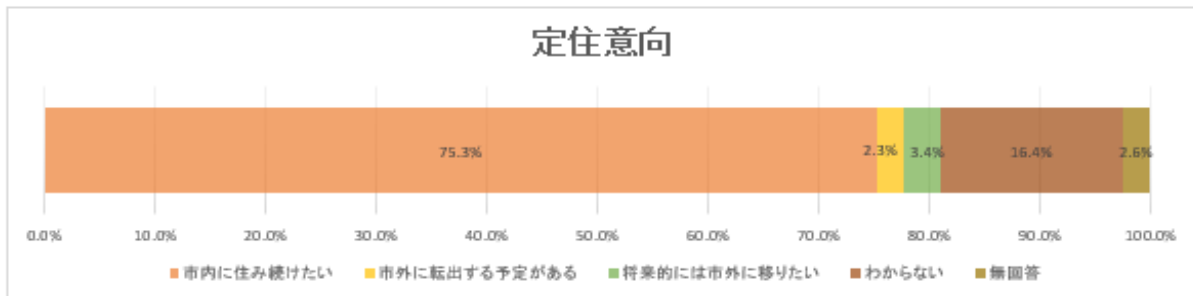
【伊東市(天城霊園使用者外) 市民】と【天城霊園使用者】、各々の「市内居住年数」を比較すると、後者の【天城霊園使用者】では「20 年以上」は 17%以上も多く、逆に「5 年未満」は【伊東市(天城霊園使用者外) 市民】 10%であったのに対して、【天城霊園使用者】では 0%であった。以後こうした「市内居住年数」が「5 年未満」という市民が定着するかということについては別の議論となるが、現在でも、伊東市においては、一定の人口(数)が流入していることが窺うコトが出来ると思料される。

■定住意向■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

1-6 定住意向

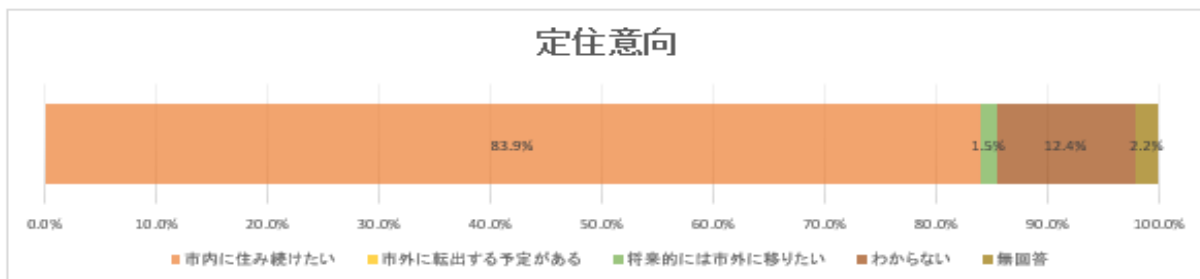
市内に住み続けたい	353	75.3%
市外に転出する予定がある	11	2.3%
将来的には市外に移りたい	16	3.4%
わからない	77	16.4%
無回答	12	2.6%
合計	469	100.0%



【天城霊園使用者】

1-5 定住意向

市内に住み続けたい	115	83.9%
市外に転出する予定がある	0	0.0%
将来的には市外に移りたい	2	1.5%
わからない	17	12.4%
無回答	3	2.2%
合計	137	100.0%



【伊東市(天城霊園使用者外)市民】と【天城霊園使用者】、各々の「定住意向」を比較すると、「市内に住み続けたい」のは、前者が 75.3%に対して、後者は 83.9%であった。この「定住意向」は別章でのべる「需要算定」で、注目される値である。

「お墓」を取得している【天城霊園使用者】の回答する「定住意向」の高さはそうしたコトを裏付けているとも言えよう。

第2章 調査結果(「一般市民」と「天城霊園使用者」との比較)

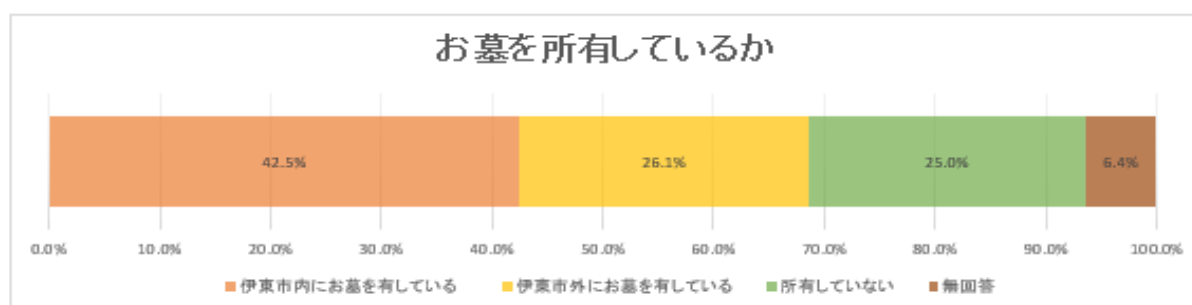
(「一般市民」対象結果を基本として「天城霊園使用者」対象結果も比較したもの)

■お墓を所有しているか■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問2 あなたの世帯ではお墓をお持ちですか

伊東市内にお墓を有している	199	42.5%
伊東市外にお墓を有している	122	26.1%
所有していない	117	25.0%
無回答	30	6.4%
合計	468	100.0%

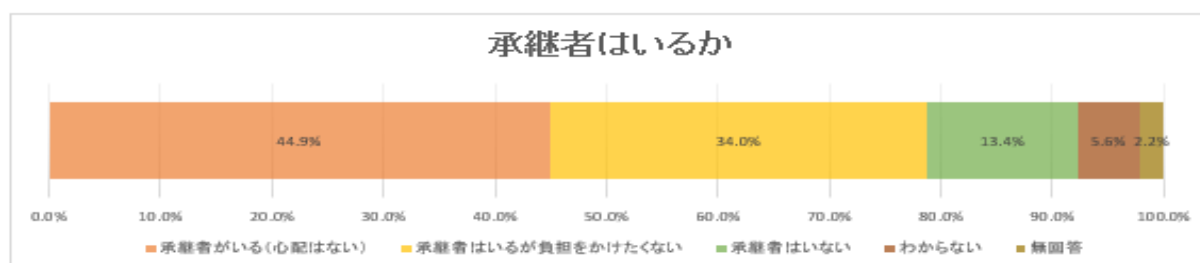


伊東市内、市外を問わず「お墓」を有しているのは68.6%(42.5+26.1)。所有していないのは25.0%であった。「無回答」なのは、「(『お墓』を)所有してはいないものの判断を躊躇っていることが思料される。また、伊東市内、市外を問わず「お墓」を有しているのは68.6%(42.5+26.1)に対しては以下の設問を重ねている。

■参考■【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問5 問2で「or2」と答えた方(321回答)、あなたの世帯のお墓には承継者がいるか

承継者がいる(心配はない)	144	44.9%
承継者はいるが負担をかけたくない	109	34.0%
承継者はいない	43	13.4%
わからない	18	5.6%
無回答	7	2.2%
合計	321	100.0%



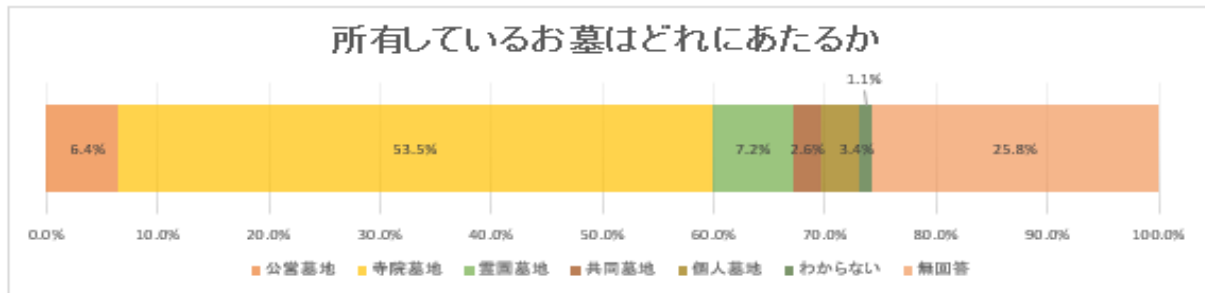
「承継者について心配してはいない」というのが44.9%。負担をかけたくないのは34.0%。承継者はいないと、「思っている」のは13.4%であった。

■所有しているお墓はどれに当たるか(経営主体)■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問3 お墓を所有している方、所有しているお墓はどれにあたるか

公営墓地	30	6.4%
寺院墓地	251	53.5%
霊園墓地	34	7.2%
共同墓地	12	2.6%
個人墓地	16	3.4%
わからない	5	1.1%
無回答	121	25.8%
合計	469	100.0%



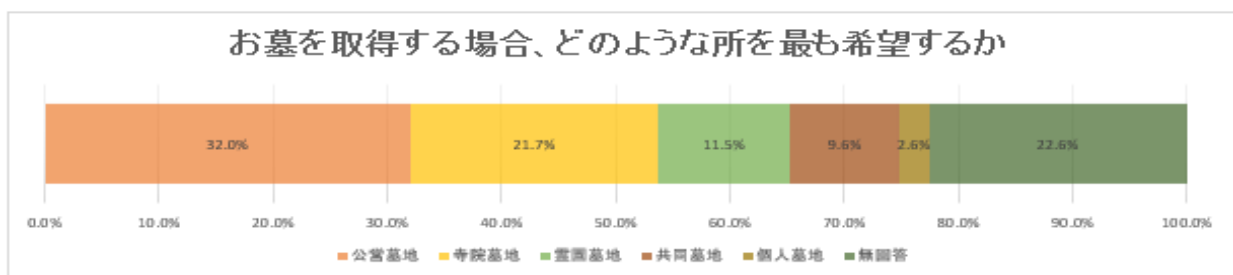
「問2」で「『お墓』を保有の有無」を尋ね、「保有している」という回答は68.6%(42.5+26.1)。321件であった。前述■参考■問5ではその321件の回答に絞って計算し直している。しかし、ここでは敢えて「保有の有無」との問と切り離して尋ねている。結果、「寺院墓地」が251件。「霊園墓地」が34件。「公営墓地」は30件。「共同墓地」は12件。「個人墓地」は16件。合計すると343件。20件程の誤差があるが、概ねの平仄は合うと思料しても問題はなかろう。この343件を母数として、比率を換算し直すと、「寺院墓地」が73.2%。以下、「霊園墓地」9.9%。「公営墓地」8.7%。「共同墓地」3.5%。「個人墓地」4.7%となる。

ちなみに、「『お墓』を保有の有無」に関わらず「取得するなら(『取得し直すなら』)どのような「墓地」が選ばれるのかは以下の通り。

■参考■【伊東市(天城霊園使用者外)市民】(詳細については後述する)

問10 お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか

公営墓地	150	32.0%
寺院墓地	102	21.7%
霊園墓地	54	11.5%
共同墓地	45	9.6%
個人墓地	12	2.6%
無回答	106	22.6%
合計	469	100.0%

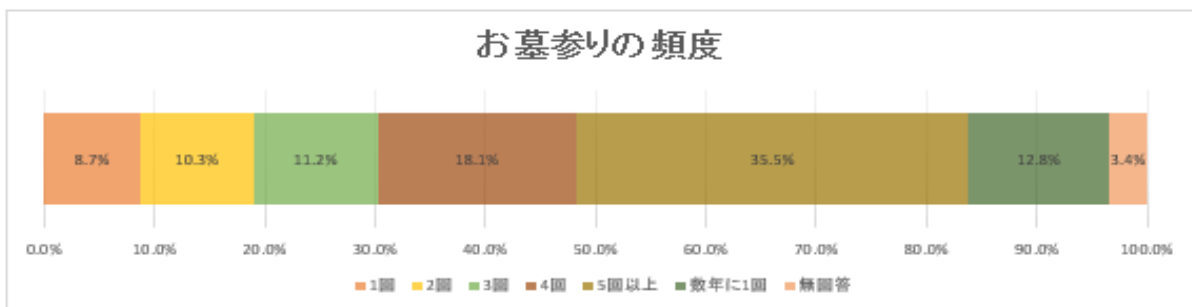


■お墓参りの頻度■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問4-1 問2で1 or 2と答えた方(321回答)、年に何回お墓参りするか

1回	28	8.7%
2回	33	10.3%
3回	36	11.2%
4回	58	18.1%
5回以上	114	35.5%
数年1回	41	12.8%
無回答	11	3.4%
合計	321	100.0%

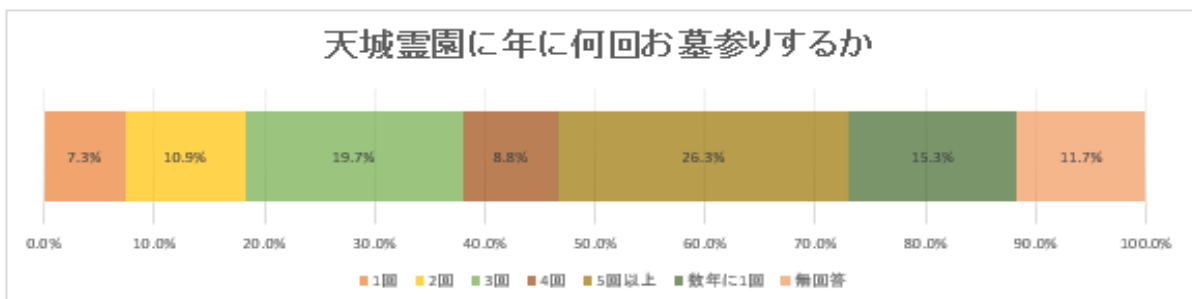


ここでは「問2」で「『お墓』を保有の有無」を尋ね、「保有している」という回答に絞って計算し直したものである。既往の他調査結果(以下、後掲 ■参考■【お墓参りの頻度】)との比較においても、伊東市民は「お墓参り」の頻度は総じて高い。

【天城霊園使用者】

問2 天城霊園に年に何回お墓参りしますか

1回	10	7.3%
2回	15	10.9%
3回	27	19.7%
4回	12	8.8%
5回以上	36	26.3%
数年1回	21	15.3%
無回答	16	11.7%
合計	137	100.0%



【天城霊園使用者】は【伊東市(天城霊園使用者外)市民】のうち「『お墓』を保有している」回答者の墓参の状況に比べて墓参の頻度が少ないようである。これは以下で触れる「問4-2」の墓参に際しての交通手段との関連がうかがえる。

■参考■【お墓参りの頻度】

「お墓参り」の頻度

	ほぼ毎日	週に1～2回位	月に1～2回位	年に3～5回位	年に1～2回位	ほとんど行かない	その他	わからない
平成2年調査（※1）	0.4%	1.1%	7.9%	31.7%	42.7%	15.2%	0.4%	0.6%
（累積）	0.4%	1.5%	9.4%	41.1%	83.8%	—	—	—
平成10年調査（※2）	0.5%	1.6%	12.5%	35.4%	36.6%	12.9%	0.3%	0.2%
（累積）	0.5%	2.1%	14.6%	50.0%	86.6%	—	—	—
平成25年調査（※3）	—	—	—	28.5%	57.1%	—	14.3%	—
（累積）	—	—	—	28.5%	85.6%	—	—	—

※1 「総理府・内閣総理大臣官房広報室」による

※2 「平成9年度厚生科学特別研究事業」による

※3 「平成25年度厚生科学特別研究事業」による

「お墓参り」の頻度－参考調査結果

年に1回	年に4～5回	0回	2～3年に1回	月命日に参る	1、2ヶ月に1回位	その他
24票（18%）	17票（13%）	8票（6%）	7票（5%）	6票（4%）	2票（1%）	66票（50%）

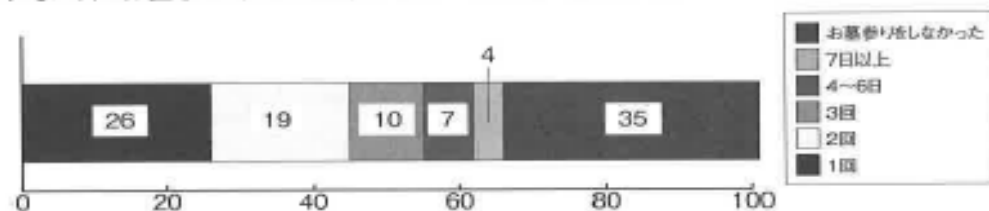
「平成21年 Potoraランキング」による

どのくらいの頻度でお墓参りに行きますか？（単回答）

項目	月2回以上	年10～12回	年9～10回	年7～8回	年6回	年5回	年4回	年3回
全体	2.0% （17名）	3.0% （25名）	1.6% （13名）	2.9% （24名）	2.4% （20名）	3.3% （27名）	7.7% （64名）	9.8% （81名）
項目	年2回	年1回	2年毎	3年毎	4～5年毎	6～10年以上毎	全く行かない	平均回数
全体	23.1% （192名）	21.9% （182名）	3.3% （27名）	2.7% （22名）	5.5% （46名）	4.5% （37名）	6.4% （53名）	年2.8回

「平成23年 メモリアルアートの大野屋 インターネットリサーチ」による

今年これまでにお墓まいりをした人（n = 1000）単位：％

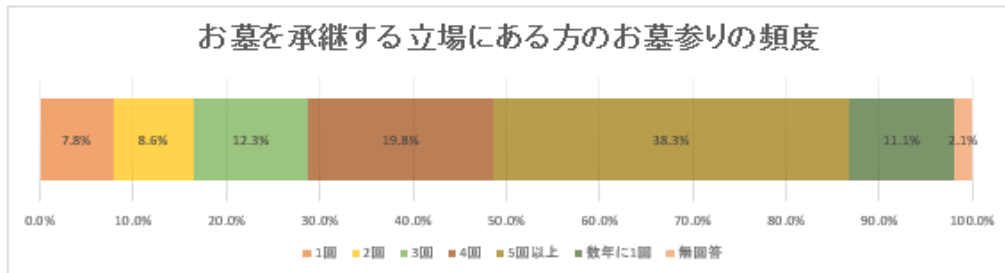


「平成25年 楽天リサーチ」による

同4-1 同2で1or2と答えた方(321回答)、年に何回お墓参りするか
※ クロス集計

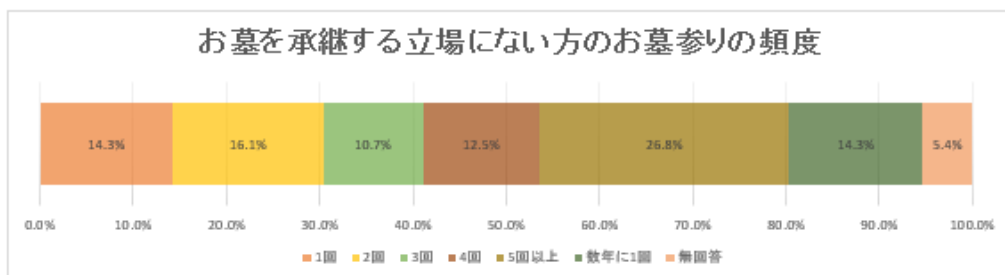
○ お墓を所有しており、お墓を承継する立場にある方、年に何回お墓参りするか(243回答)

1回	19	7.8%
2回	21	8.6%
3回	30	12.3%
4回	48	19.8%
5回以上	93	38.3%
数年1回	27	11.1%
無回答	5	2.1%
合計	243	100.0%



○ お墓を所有しており、お墓を承継する立場にない方、年に何回お墓参りするか(56回答)

1回	8	14.3%
2回	9	16.1%
3回	6	10.7%
4回	7	12.5%
5回以上	15	26.8%
数年1回	8	14.3%
無回答	3	5.4%
合計	56	100.0%



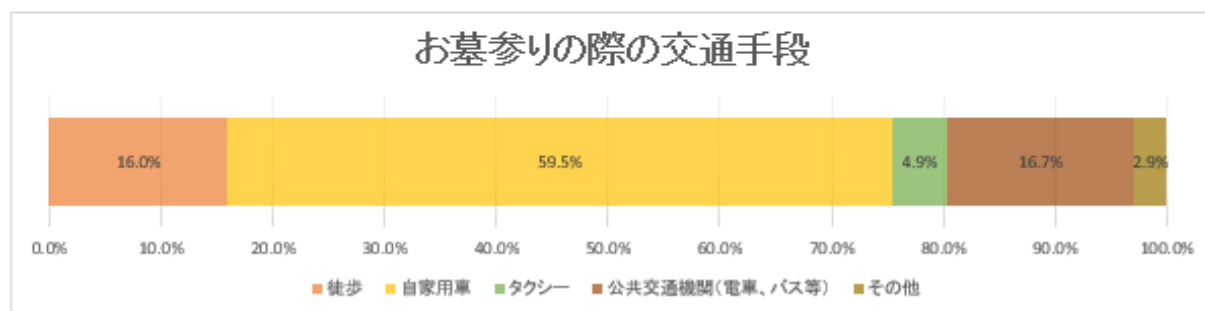
※ お墓を承継する立場にない場合、多少お墓参りの頻度は低くなる

■お墓参りの際の交通手段■

【伊東市(天城霊園利用者外)市民】

問4-2 問2で1or2と答えた方(321回答)、その際の交通手段は(複数回答可)

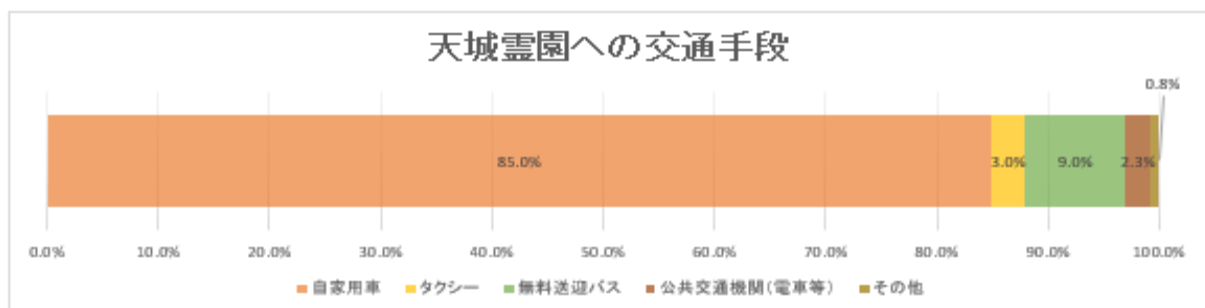
徒歩	65	16.0%
自家用車	242	59.5%
タクシー	20	4.9%
公共交通機関(電車、バス等)	68	16.7%
その他	12	2.9%
合計	407	100.0%



【天城霊園利用者】

問3 天城霊園までの交通手段は(複数回答可)

自家用車	113	85.0%
タクシー	4	3.0%
無料送迎バス	12	9.0%
公共交通機関(電車等)	3	2.3%
その他	1	0.8%
合計	133	100.0%



ここでは【伊東市(天城霊園利用者外)市民】の結果は、「問2」の「『お墓』を保有の有無」を尋ね、「保有している」という回答に絞って計算し直したものである。

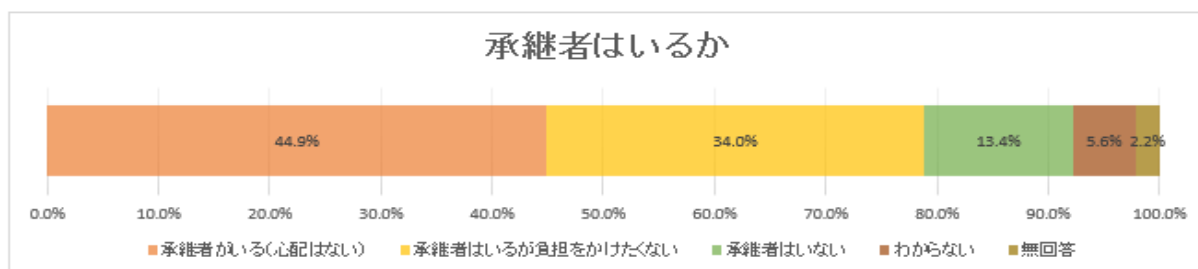
まず「自家用車の使用」は59.5%。これに対して【天城霊園利用者】の結果は、「自家用車の使用」は85.0%と25.5%も高くなった。天城霊園では無料送迎バスを運行しているが、これを利用していると回答しているのは9.0%。【伊東市(天城霊園利用者外)市民】で「『お墓』を保有している」場合の「公共交通機関」を利用しているのは16.7%。この結果をから窺う限り、「お墓」の使用者が高齢化してゆく現在、「お墓参り」を難しくさせてしまうことが懸念される。前述した「問4-1」「『お墓』参り」の頻度でも触れたが、こうした交通手段のある種の「制約」がお墓参りに影響を与えていることを窺えると思料される。

■(お墓の)承継者は・承継する立場か■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問5 問2で1or2と答えた方(321回答)、あなたのお墓には承継者がいるか

承継者がいる(心配はない)	144	44.9%
承継者がいるが負担をかけたくない	109	34.0%
承継者がいない	43	13.4%
わからない	18	5.6%
無回答	7	2.2%
合計	321	100.0%



ここでは【伊東市(天城霊園使用者外)市民】に対する設問「問2」の「『お墓』を保有の有無」について、(伊東市の内外を問わず)「保有している」という回答に絞って計算し直したものである。

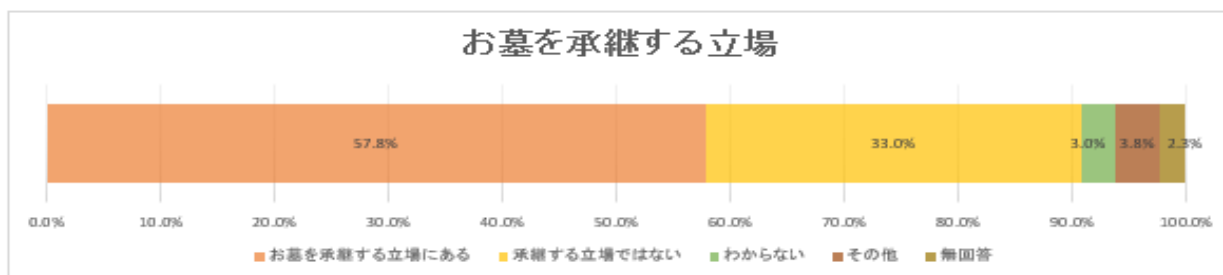
「承継者について心配してはいない」というのが44.9%。負担をかけたくないのは34.0%。承継者はいないと、「思っている」のは13.4%であった。

この他、他のアンケートの設問、たとえば、「お墓の承継」については(ここでは「お墓の有無」については特に尋ねず)、「お墓を承継する」立場にあるか否かを尋ねた処「承継する立場にある」という回答が57.8%と、ほぼ6割であったのに対して、「承継する立場ではない」という回答は33.0%であった。この値は「傍系世帯率」などとも呼び、前述した「問1-4」の「定住意向」と同じく、この「お墓を取得する必要」は別章でのべる「需要算定」で注目される値である。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

1-3 お墓の承継

お墓を承継する立場にある	271	57.8%
承継する立場ではない	155	33.0%
わからない	14	3.0%
その他	18	3.8%
無回答	11	2.3%
合計	469	100.0%

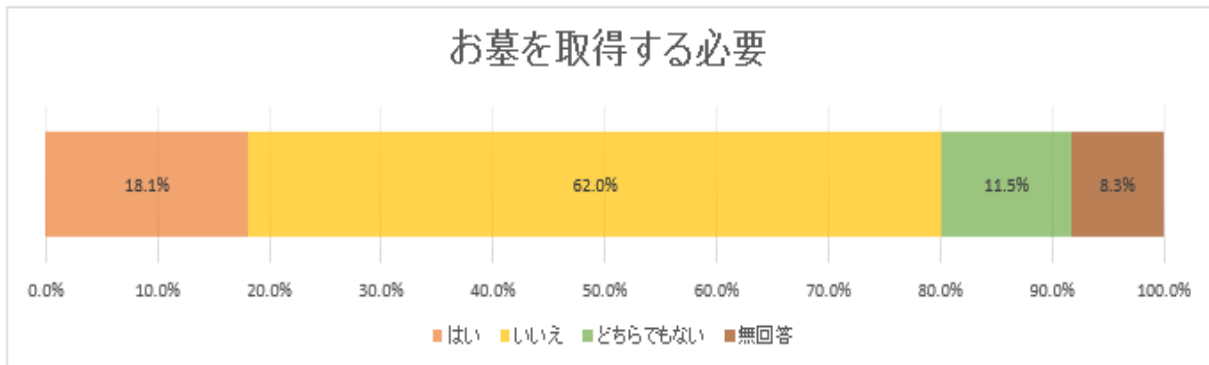


■お墓を取得する必要(性)■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問6 あなたの世帯ではお墓を取得する必要があるか

はい	85	18.1%
いいえ	291	62.0%
どちらでもない	54	11.5%
無回答	39	8.3%
合計	469	100.0%



前述した「問 1-3」「お墓を承継する立場」、「問 1-6」の「定住意向」と同じく、この「お墓を取得する必要」は別章でのべる「需要算定」で注目される値である。

前述「問 2」では「あなたの世帯ではお墓をお持ちですか(「お墓を所有しているか」)」と尋ねると、「所有していない」割合が 25.0%であった。

この点をシンプルに解すると、「お墓を取得する必要」が「ある(はい)」と回答をしたのが、18.1%。「どちらでもない」が 11.5%であるから、「(『お墓』を所有していない)」25.0%との差(違い)が、ここでの「あなたの世帯ではお墓を取得があるか」という問に対して、「どちらでもない(わからない)」と回答をしたのであろうと史料される。

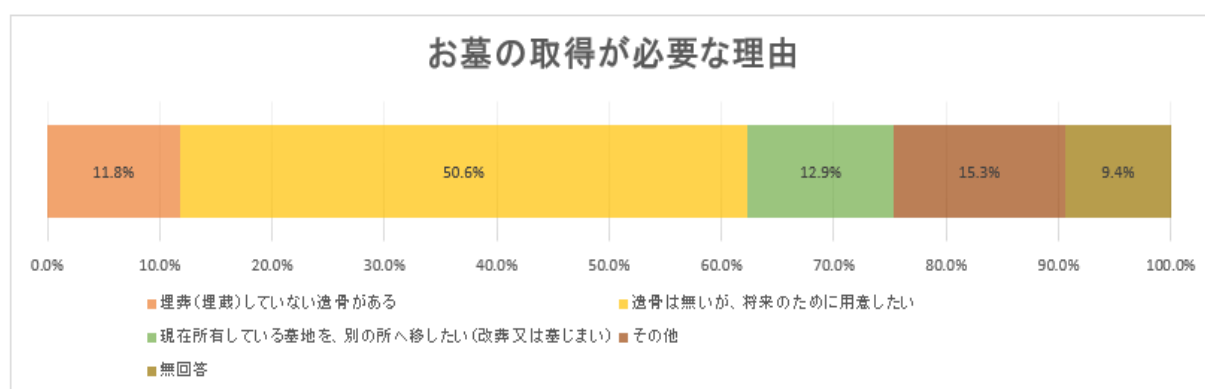
■お墓を取得が必要な理由・取得予定時期■

前項「■お墓を取得する必要(性)■」で「はい(取得する必要がある)」と回答した 85 回答に関して、その理由や時期について、その詳細を尋ねたものである。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

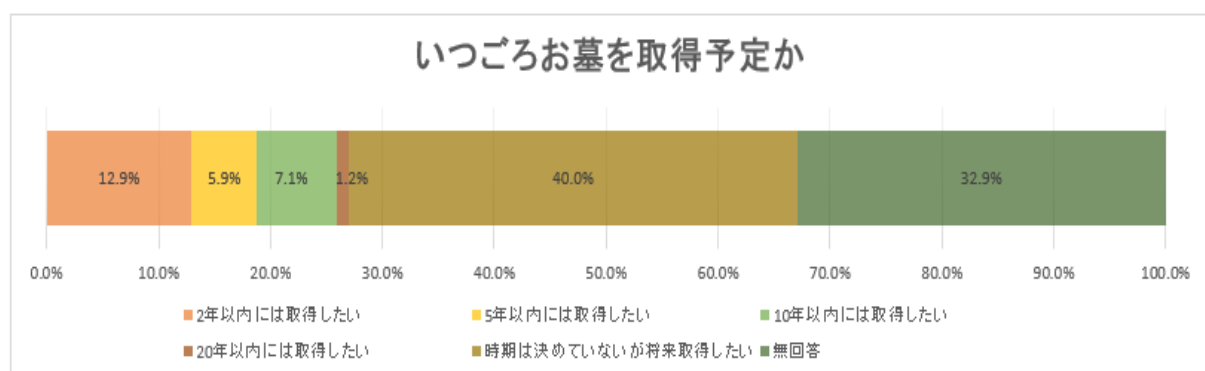
問7-1 問6で1と答えた方(85回答) お墓の取得が必要な理由は何か

埋葬(埋蔵)していない遺骨がある	10	11.8%
遺骨は無いが、将来のために用意したい	43	50.6%
現在所有している基地を、別の所へ移したい(改葬又は墓じまい)	11	12.9%
その他	13	15.3%
無回答	8	9.4%
合計	85	100.0%



問7-2 いつごろ取得予定か

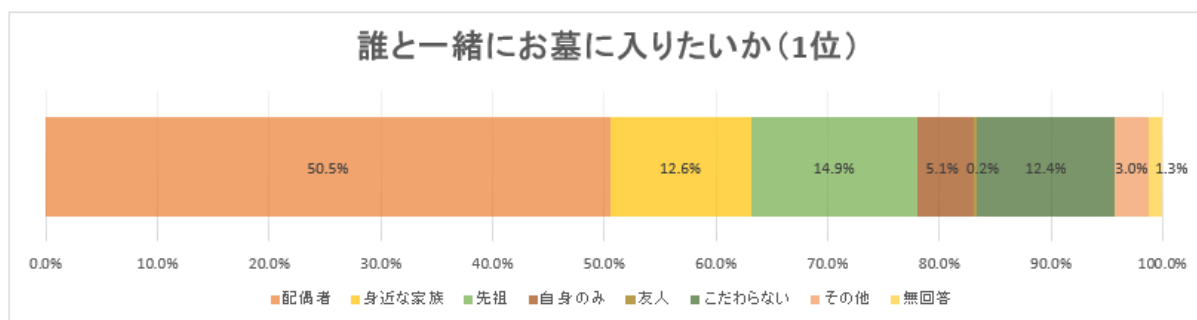
2年以内には取得したい	11	12.9%
5年以内には取得したい	5	5.9%
10年以内には取得したい	6	7.1%
20年以内には取得したい	1	1.2%
時期は決めていないが将来取得したい	34	40.0%
無回答	28	32.9%
合計	85	100.0%



■誰と一緒に墓に入りたいか■

問8 誰と一緒に墓に入りたいか(1位)

配偶者	237	50.5%
身近な家族	59	12.6%
先祖	70	14.9%
自身のみ	24	5.1%
友人	1	0.2%
こだわらない	58	12.4%
その他	14	3.0%
無回答	6	1.3%
合計	469	100.0%



この設問はある種の「家族観」の相貌を投影させる設問である。この設問だけでは伊東市民の「家族観」が「どうか」についての判断をすることが出来ないので、平成 25 年度厚生科学特別研究事業で得られた「全国」を対象とした調査結果は以下の通り(但し、複数回答可)。回答方法の違いを勘案すれば、ほぼ全国的な家族観と大きくは変わらないと思料される。

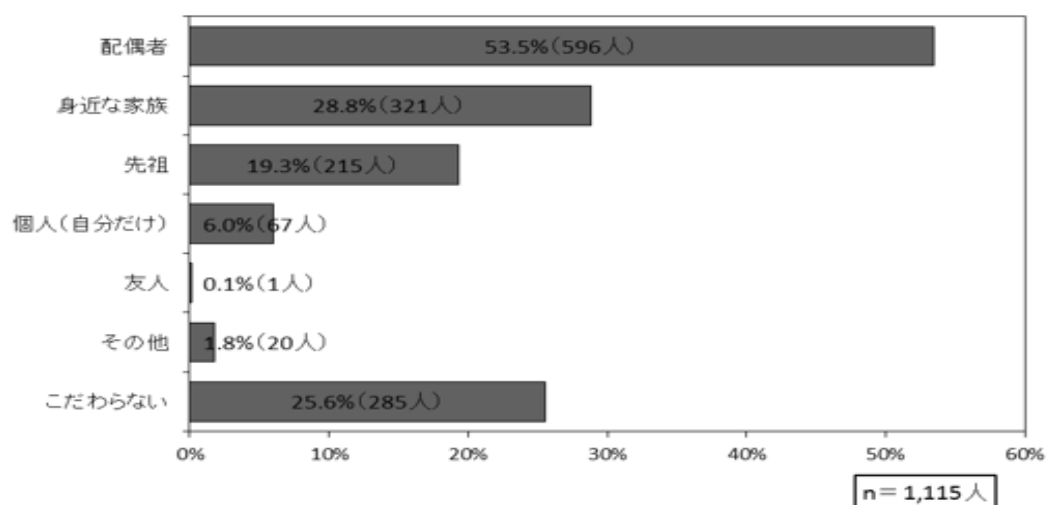
10. お墓と一緒に入る人

問14 あなたは、お墓にどのような人と一緒に入ることを考えていますか。あてはまる人をすべてお選びください。(お答えはいくつでも)

【全体結果】

お墓にどのような人と一緒に入るかについては、「配偶者」(53.5%)が最も多く、次いで、「身近な家族」(28.8%)、「こだわらない」(25.6%)となっている。

図 9.1 お墓と一緒に入る人



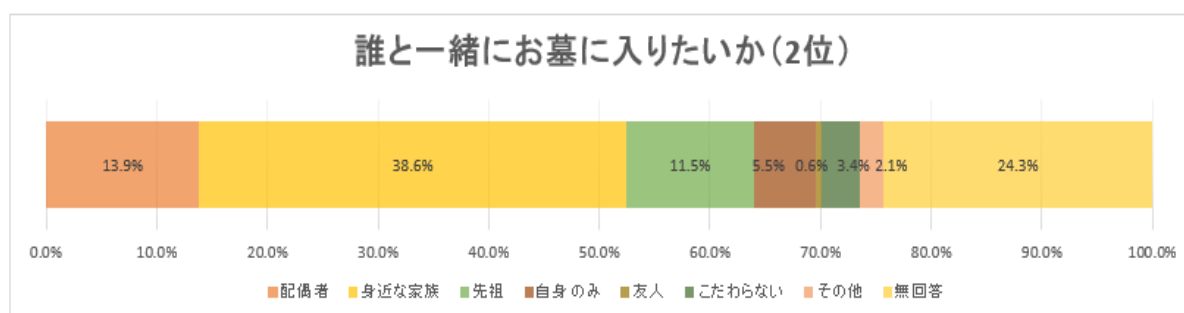
■誰と一緒に墓に入りたいか■(続き)

この「■誰と一緒に墓に入りたいか■」では第2希望、第3希望を尋ねている。第1希望において、まずは「配偶者」が挙げられ、次いで「身近な家族」、そして「先祖」が挙がる。

但し、「先祖」が挙げられる第3希望になると、もっとも多い回答は「わからない」「無回答」が合わせて50%をこえる。こうしたことも合わせて思料すると、この第3希望で挙げられた「先祖」というのは、漠然としたイメージとして挙げられているに留まる。

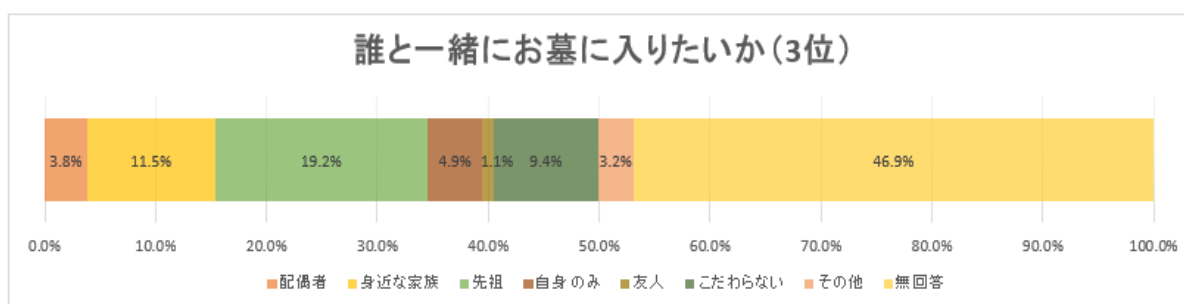
問8 誰と一緒に墓に入りたいか(2位)

配偶者	65	13.9%
身近な家族	181	38.6%
先祖	54	11.5%
自身のみ	26	5.5%
友人	3	0.6%
こだわらない	16	3.4%
その他	10	2.1%
無回答	114	24.3%
合計	469	100.0%



問8 誰と一緒に墓に入りたいか(3位)

配偶者	18	3.8%
身近な家族	54	11.5%
先祖	90	19.2%
自身のみ	23	4.9%
友人	5	1.1%
こだわらない	44	9.4%
その他	15	3.2%
無回答	220	46.9%
合計	469	100.0%

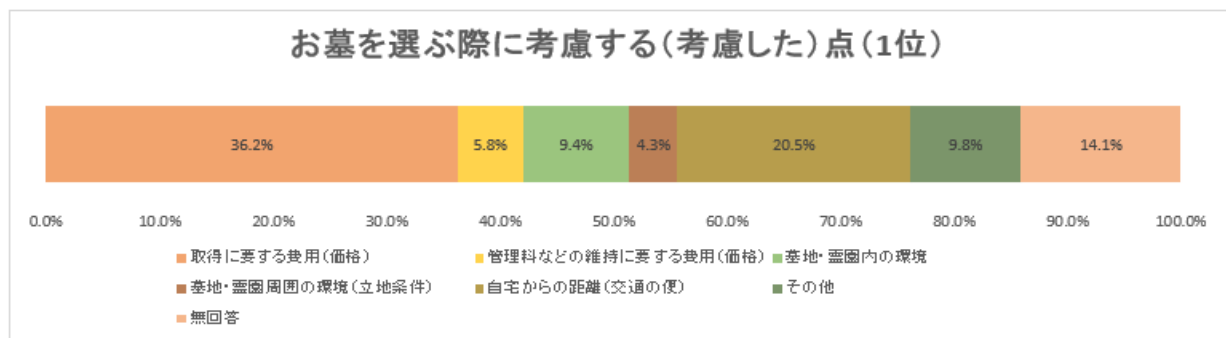


■お墓を選ぶ時に考慮する点・考慮した点■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問9-1 お墓を選ぶ際に考慮する(考慮した)点(1位)

取得に要する費用(価格)	170	36.2%
管理料などの維持に要する費用(価格)	27	5.8%
墓地・霊園内の環境	44	9.4%
墓地・霊園周囲の環境(立地条件)	20	4.3%
自宅からの距離(交通の便)	96	20.5%
その他	46	9.8%
無回答	66	14.1%
合計	469	100.0%

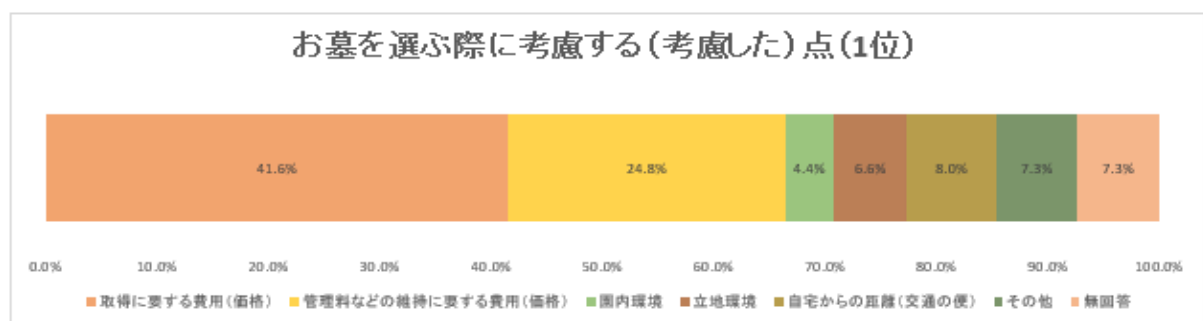


「■お墓を選ぶ時に考慮する点・考慮した点■」を尋ねたところ、費用に関する項目を挙げた回答は42.0%。自宅からの距離(交通の便)を挙げたのは20.5%であった。天城霊園使用者は、費用に関する項目を挙げた回答は66.8%。自宅からの距離(交通の便)を挙げたのは8.0%であった。

■参考■【天城霊園使用者】

問7-1 お墓を選ぶ際に考慮する(考慮した)点(1位)

取得に要する費用(価格)	57	41.6%
管理料などの維持に要する費用(価格)	34	24.8%
園内環境	6	4.4%
立地環境	9	6.6%
自宅からの距離(交通の便)	11	8.0%
その他	10	7.3%
無回答	10	7.3%
合計	137	100.0%



前述したアンケート結果は、まず、【天城霊園使用者】が「自宅からの距離(交通の便)」を挙げたのが市民一般の回答(20.5%)より半分以下(8.5%)となっていた。

これは、そもそも天城霊園を求めたのは「公営」である「安心感」に対してであることが思料される。たとえば「管理料など維持に要する費用(価格)」への志向が高いのは管理料の「安さ」というより、管理料などの「透明感」であろうと思料される。

であるとしても、伊東市々民一般の回答でも「自宅からの距離(交通の便)」に対する志向・考慮が、既往調査と比べると、その結果は希薄であるに思われる。(「既往調査と比べる」例示として平成 25 年度厚生科学特別研究事業結果を掲げた)。

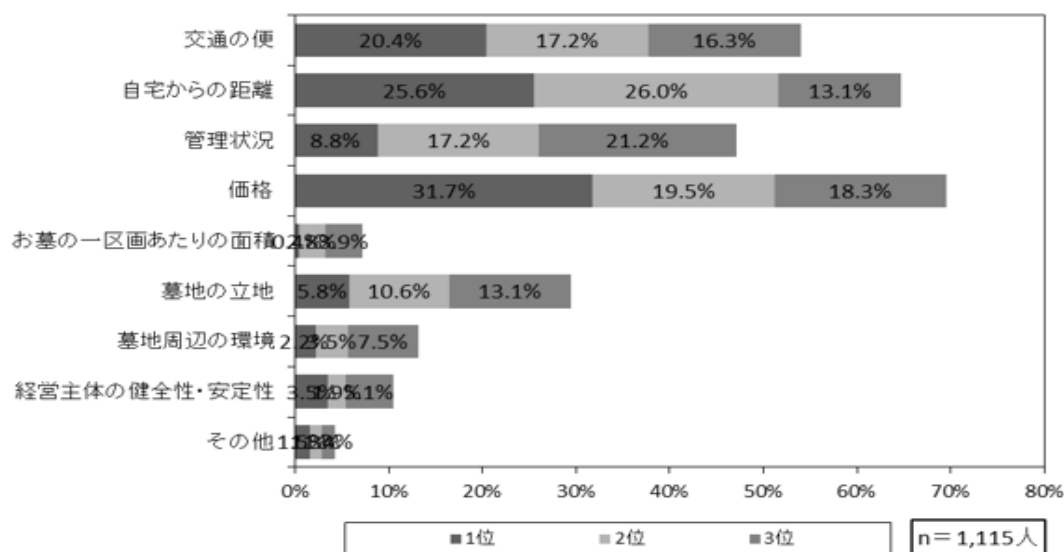
11. お墓を選ぶ時に考慮・基準にする点

問15 あなたが、お墓を選ぶ、または新たに選ぶとしたら、考慮・基準とする点について優先する順位をお答えください。(お答えはそれぞれ1つ)

【全体結果】

お墓を選ぶ時に考慮・基準にする点で1位から3位の合計の割合で見ると、最も多いのは「価格」(69.5%)で、次いで、「自宅からの距離」(64.7%)、「交通の便」(54.0%)となっている。1位で最も多いのは「価格」(31.7%)で、2位では「自宅からの距離」(26.0%)、3位では「管理状況」(21.2%)となっている。

図 10.1□お墓を選ぶ時に考慮・基準にする点



そこで、ここでの「■お墓を選ぶ時に考慮する点・考慮した点■」において、「価格」を挙げた回答、「環境」を挙げた回答、「距離」を挙げた回答各々に関して、別項の設問「問 9-2 市内のお墓を購入する場合、自宅から車で何分以内であれば購入するか」の回答結果とクロス集計を行い、更なる分析に踏み込んだ。すると、何れの選択肢を選んだ市民においても、多少の幅はあるものの、ほぼ 50～70%の市民は「自宅から 30 分以内」であることを志向していることが明らかになった。「自宅から 60 分以内」までとすれば、優に 60～80%になることから、市民回答者にとっては、「自宅からの距離(交通の便)」は所与の前提なのであって、取り分け「■お墓を選ぶ時に考慮する点・考慮した点■」としては挙げられていないに過ぎないことが分かる。

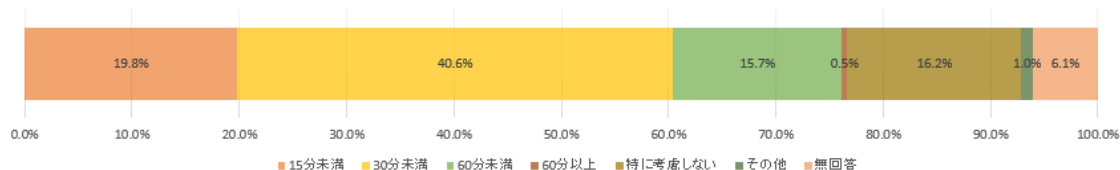
問9-1 お墓を選ぶ際に考慮する(考慮した)点(1位)

※ クロス集計:「価格」「環境」「距離」のそれぞれについて、問9-2「市内のお墓を購入する場合、自宅から車で何分以内であれば購入するか」をクロス

○ お墓を購入する際、「価格」を最も考慮する方(197回答)、市内のお墓を購入する場合、自宅から車で何分以内であれば購入するか

15分未満	39	19.8%
30分未満	80	40.6%
60分未満	31	15.7%
60分以上	1	0.5%
特に考慮しない	32	16.2%
その他	2	1.0%
無回答	12	6.1%
合計	197	100.0%

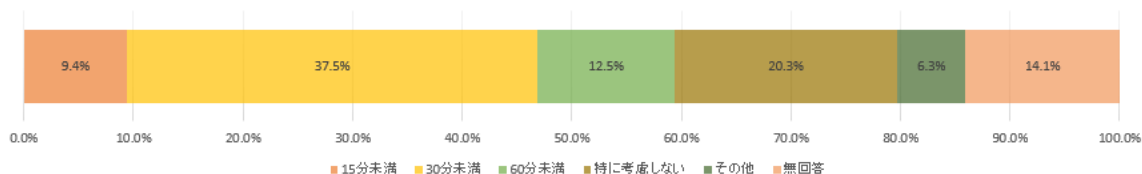
市内のお墓を購入する場合、自宅から何分以内であれば購入するか
(購入時「価格」を最も考慮する方の中で)



○ お墓を購入する際、「環境」を最も考慮する方(64回答)、市内のお墓を購入する場合、自宅から車で何分以内であれば購入するか

15分未満	6	9.4%
30分未満	24	37.5%
60分未満	8	12.5%
60分以上	0	0.0%
特に考慮しない	13	20.3%
その他	4	6.3%
無回答	9	14.1%
合計	64	100.0%

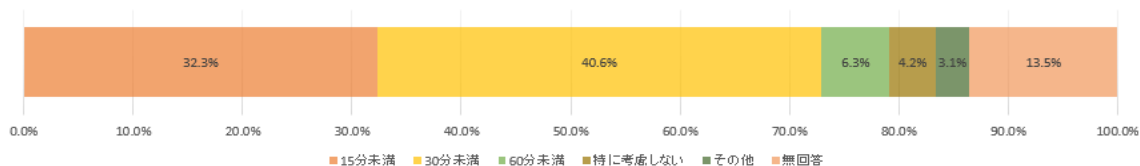
市内のお墓を購入する場合、自宅から何分以内であれば購入するか
(購入時「環境」を最も考慮する方の中で)



○ お墓を購入する際、「距離」を最も考慮する方(96回答)、市内のお墓を購入する場合、自宅から車で何分以内であれば購入するか

15分未満	31	32.3%
30分未満	39	40.6%
60分未満	6	6.3%
60分以上	0	0.0%
特に考慮しない	4	4.2%
その他	3	3.1%
無回答	13	13.5%
合計	96	100.0%

市内のお墓を購入する場合、自宅から何分以内であれば購入するか
(購入時「距離」を最も考慮する方の中で)



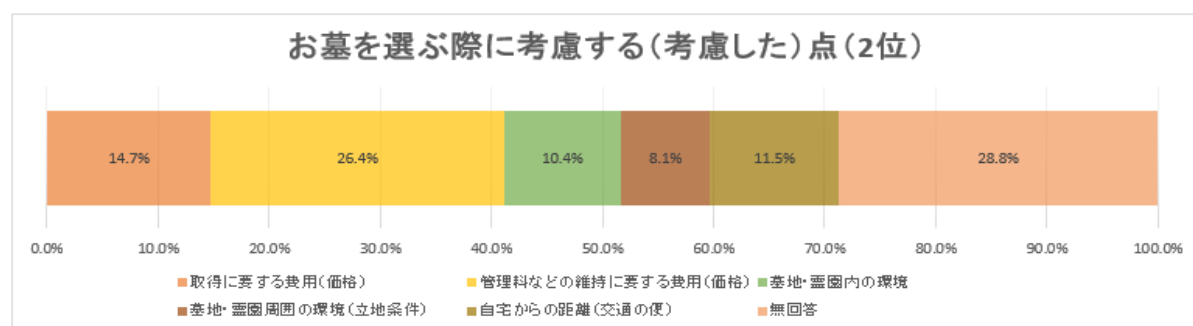
■お墓を選ぶ時に考慮する点・考慮した点■(続き)

ここでは、第1位希望以下を尋ねると、その回答に変遷が認められるのか確認する意味も含めて設問した。しかし、結果としては、第1位希望で14.1%であった「無回答」の割合が、第2位希望では28.8%。第3位希望では38.4%と増加するばかりであった(なお、【天城霊園使用者】でもほぼ同様の推移・変化であった)。つまり、ひとつ目を「考慮する点」の選択(ここでは「第1位希望」)に対して、それ以上踏み込んだ検討が回答者のなかで準備されていないことが窺える。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

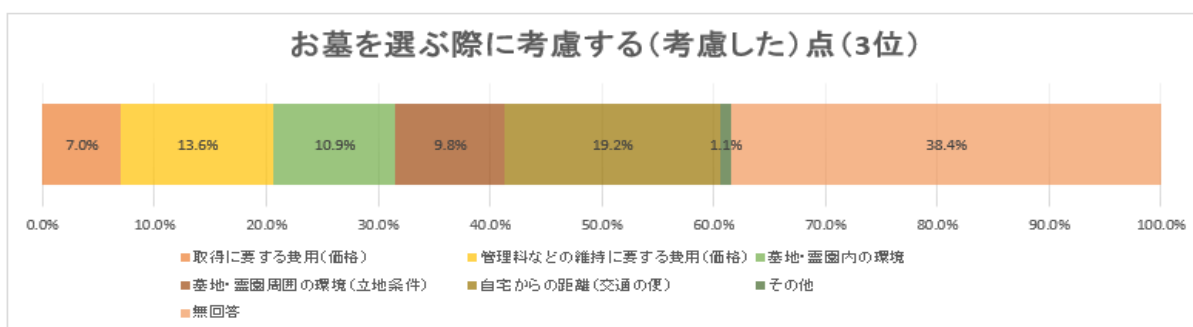
問9-1 お墓を選ぶ際に考慮する(考慮した)点(2位)

取得に要する費用(価格)	69	14.7%
管理料などの維持に要する費用(価格)	124	26.4%
墓地・霊園内の環境	49	10.4%
墓地・霊園周囲の環境(立地条件)	38	8.1%
自宅からの距離(交通の便)	54	11.5%
その他	0	0.0%
無回答	135	28.8%
合計	469	100.0%



問9-1 お墓を選ぶ際に考慮する(考慮した)点(3位)

取得に要する費用(価格)	33	7.0%
管理料などの維持に要する費用(価格)	64	13.6%
墓地・霊園内の環境	51	10.9%
墓地・霊園周囲の環境(立地条件)	46	9.8%
自宅からの距離(交通の便)	90	19.2%
その他	5	1.1%
無回答	180	38.4%
合計	469	100.0%

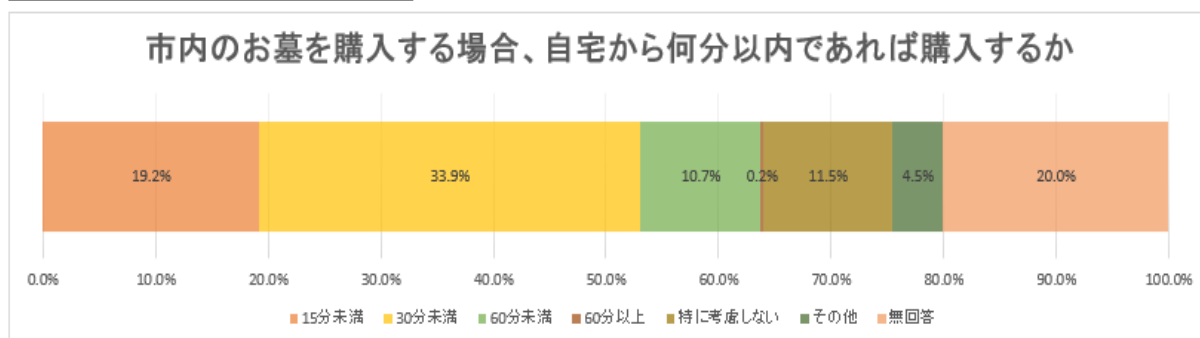


■お墓を求める場合の「自宅からの所要時間」・交通手段■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問9-2 市内のお墓を購入する場合、自宅から車で何分以内であれば購入するか

15分未満	90	19.2%
30分未満	159	33.9%
60分未満	50	10.7%
60分以上	1	0.2%
特に考慮しない	54	11.5%
その他	21	4.5%
無回答	94	20.0%
合計	469	100.0%



詳細については「■お墓を選ぶ時に考慮する点・考慮した点■」で、既に述べた通りである。

ここでは「交通手段」についても合わせてみる。以下の結果は【伊東市(天城霊園使用者外)市民】
【天城霊園使用者】の調査結果、『お墓』を保有の有無を尋ね、「保有している」という回答に絞って計算し直したものである(次頁)。

「お墓を有している」市民一般が「お墓参り」をする際の「方法」は(複数回答)、「自家用車」が59.5%を占めるものの、「公共交通機関」は16.7%。「徒歩」で16.0%であった。「自家用車」の依存度が高いことは、超高齢社会を迎えるにあたっては懸念される。

ただ、【天城霊園使用者】では「自家用車」が85.0%を占め、同霊園で運行されている「無料送迎バス」の利用は9.0%に留まる。

前述した■お墓参りの頻度■での回答でも、「お墓を有している」市民一般より、【天城霊園使用者】の墓参頻度が低い傾向を示していることが明らかになっている。

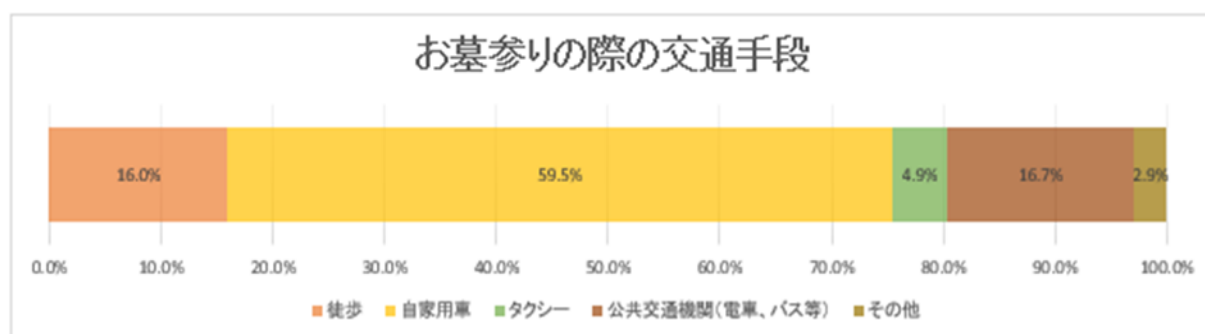
無縁化の問題などとは別に、「天城霊園」では、今後の(霊園への)アクセスへの配慮に関する検討が求められることとなろう。

■お墓を求める場合の「自宅からの所要時間」・交通手段■(続き - 解説は前頁より。参照のこと)

■参考■【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問4-2 問2で1or2と答えた方(321回答)、その際の交通手段は(複数回答可)

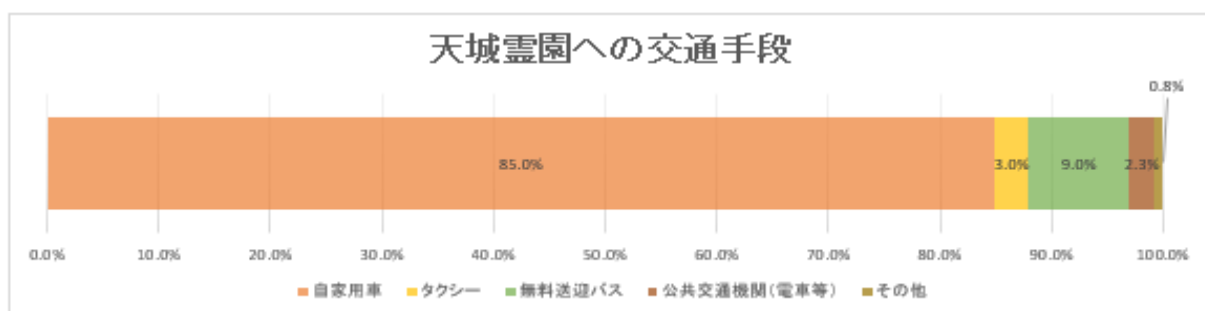
徒歩	65	16.0%
自家用車	242	59.5%
タクシー	20	4.9%
公共交通機関(電車、バス等)	68	16.7%
その他	12	2.9%
合計	407	100.0%



■参考■【天城霊園使用者】

問3 天城霊園までの交通手段は(複数回答可)

自家用車	113	85.0%
タクシー	4	3.0%
無料送迎バス	12	9.0%
公共交通機関(電車等)	3	2.3%
その他	1	0.8%
合計	133	100.0%

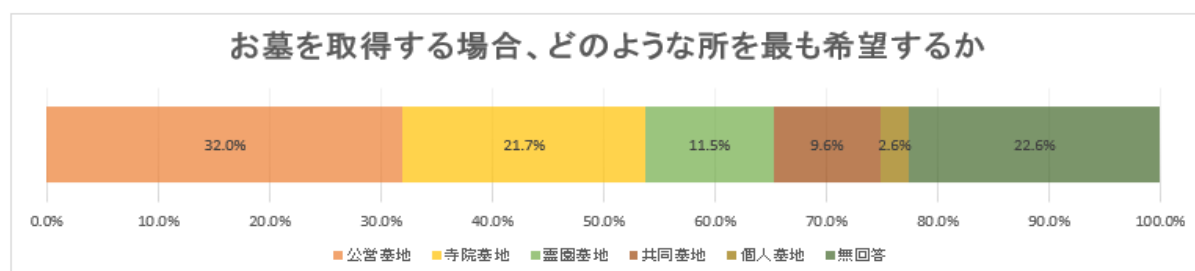


■お墓を求める場合は「どのような処(経営主体)」か■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民

問10 お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか

公営墓地	150	32.0%
寺院墓地	102	21.7%
霊園墓地	54	11.5%
共同墓地	45	9.6%
個人墓地	12	2.6%
無回答	106	22.6%
合計	469	100.0%



この結果のみに依拠してしまうと、伊東市民の公営墓地に対する希望(ニーズ)が高いようではある。しかし、ここで「公営墓地」を希望した32.0%(150回答)に対して、後述する「問11-2 お墓を取得する場合、天城霊園を検討するか」という設問の回答を重ねると、31.3%でしかない。つまり、ここでの「問10 お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか」という設問に対して「(伊東市営)天城霊園」を求めるのは1割程度ということになる。

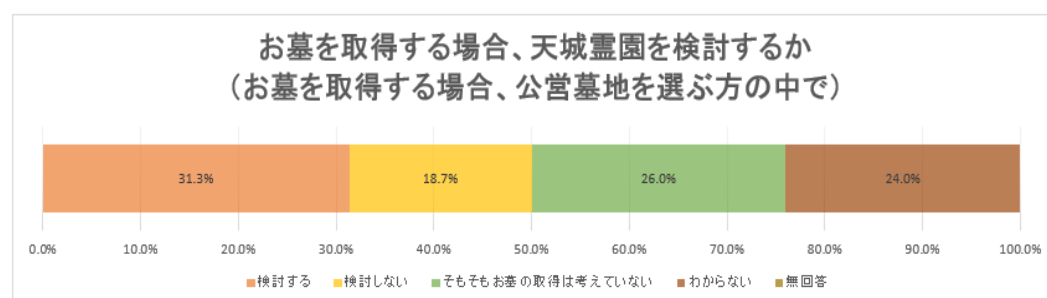
■参考■【伊東市(天城霊園使用者外)市民】「問11-2 お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか」

問11-2 お墓を取得する場合、天城霊園を検討するか

※ クロス集計:問10「お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか」で公営墓地を選んだ方(150回答)についてお墓を取得する場合天城霊園を検討するかをクロス

○ お墓を取得する場合、天城霊園を検討するか(公営墓地を選ぶ方(150回答))

検討する	47	31.3%
検討しない	28	18.7%
そもそもお墓の取得は考えていない	39	26.0%
わからない	36	24.0%
無回答	0	0.0%
合計	150	100.0%

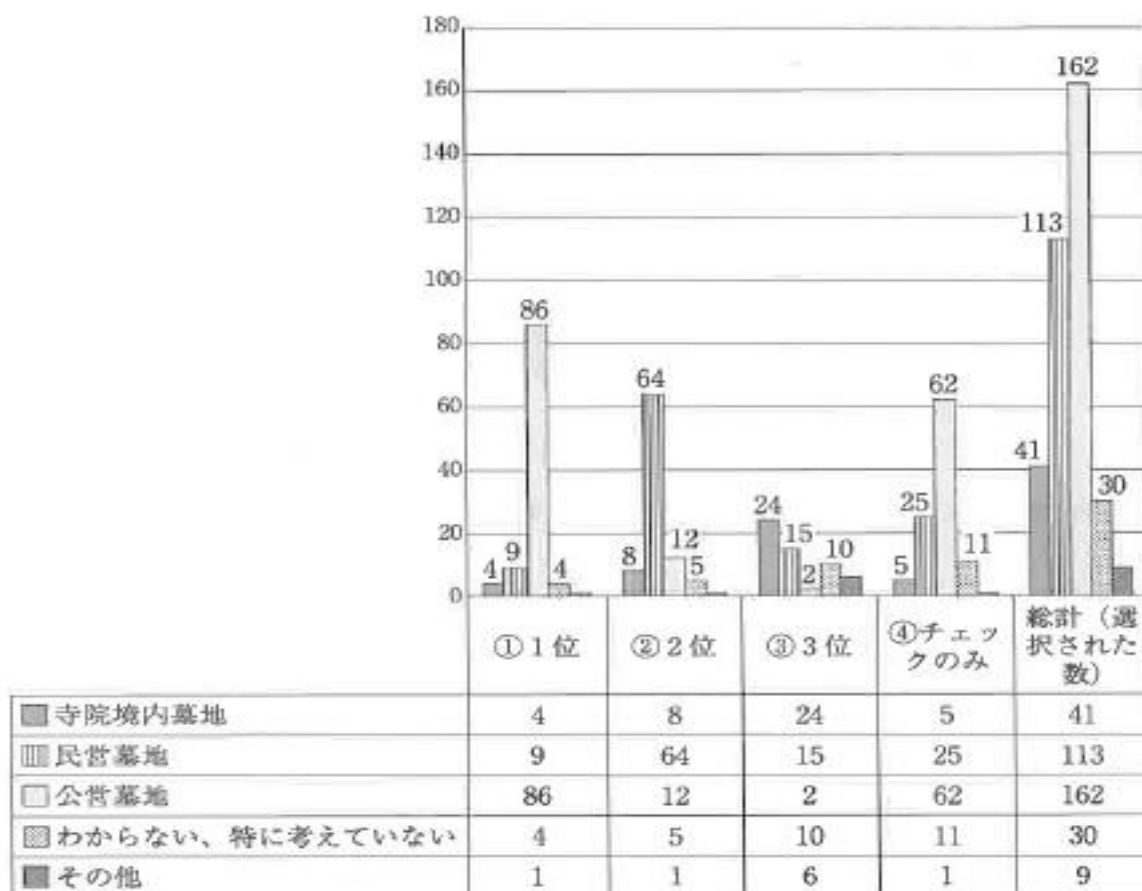


また、既往の他調査結果においても、「公営墓地」を(第1位に)希望した回答者も、その選択が適わなかった場合、その多くが「霊園墓地」を志向する傾向であることが明らかとなっている。

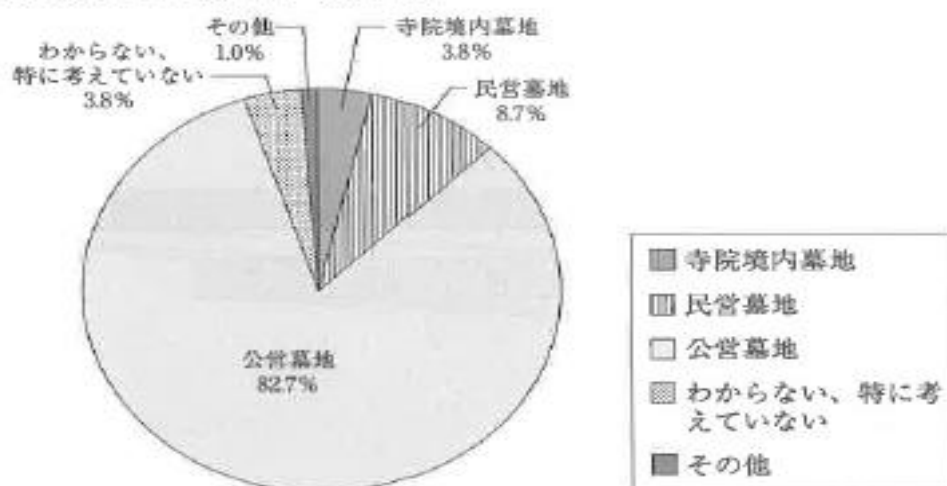
※:「霊園墓地」とは「事業型墓地」(「これからの墓地等の在り方を考える懇談会」報告書 平成10年 厚生省生活衛生局)のこと。アンケートでは膾炙された「霊園墓地」等の表記が用いられる。

■参考■既往の他調査結果(例)

希望する墓地の経営主体（回答数）



希望する墓地の経営主体の割合（第1位）



※：上掲図表は平成 25 年度厚生労働科学研究による。

<http://www.zenbokyo.or.jp/H25tokubetukenyu-houkokusho.html>

「民営」墓地とは「事業型墓地」（「これからの墓地等の在り方を考える懇談会」報告書 平成 10 年厚生省生活衛生局）のこと。

現時点における「伊東市営天城霊園第3期計画」では、2ブロックが対象となっており、その計画履行にあたっては、調整池の見直しをはじめとする大掛かりな整備が想定される。が、それにより提供することが出来る区画数は限られる。従って、整備・工事費を区画あたりに換算・置き換える(受益者負担)とすると、かなりの高額なものになると想定される。

そのことは、下掲グラフ(上)の結果にそぐわないものといえよう。

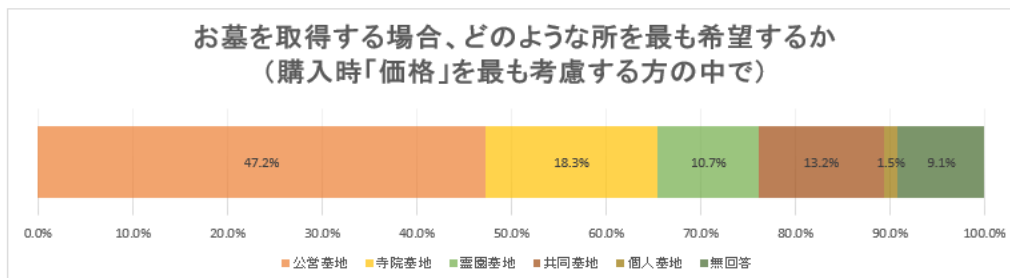
しかし、費やされる整備・工事費と切り離して、低廉な使用料の設定に留めると、提供可能な区画数が極めて限られる - つまり - 利用可能な伊東市民は限られるにもかかわらず、その区画整備に要する工事費などを市税で賄うのは、負担の在り方として妥当性が問われるであろう。

そもそも「公営墓地」へ志向する回答は「自宅から30分未満」というのが7割近い(下掲グラフ(下)の結果)。こうしたことも考慮すると、そもそも「天城霊園」が大掛かりな整備を加えるなどの新たな負担が「許容」され得る「公営墓地」なのかということも見直される必要性も思料される。また、後述■今後、市が整備すべき(と思うお墓の形態)■でも明らかとなるが、今後の市営霊園で望まれている(「お墓」の)形態は、これまで天城霊園で提供されてきた形態ではないものが求められていることも思料しなくてはならない。

問10 お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか
※ クロス集計

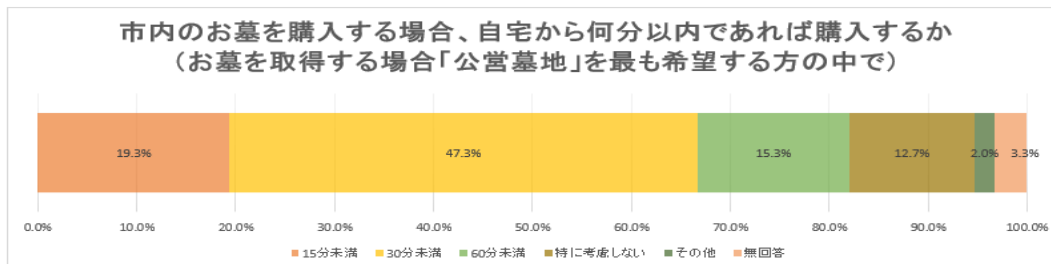
○ お墓を購入する際、「価格」を最も考慮する方(197回答)、 お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか

公営墓地	93	47.2%
寺院墓地	36	18.3%
霊園墓地	21	10.7%
共同墓地	26	13.2%
個人墓地	3	1.5%
無回答	18	9.1%
合計	197	100.0%



○ お墓を取得する場合「公営墓地」を最も希望する方(150回答)、市内のお墓を購入する場合、自宅から車で何分以内であれば購入するか

15分未満	29	19.3%
30分未満	71	47.3%
60分未満	23	15.3%
60分以上	0	0.0%
特に考慮しない	19	12.7%
その他	3	2.0%
無回答	5	3.3%
合計	150	100.0%

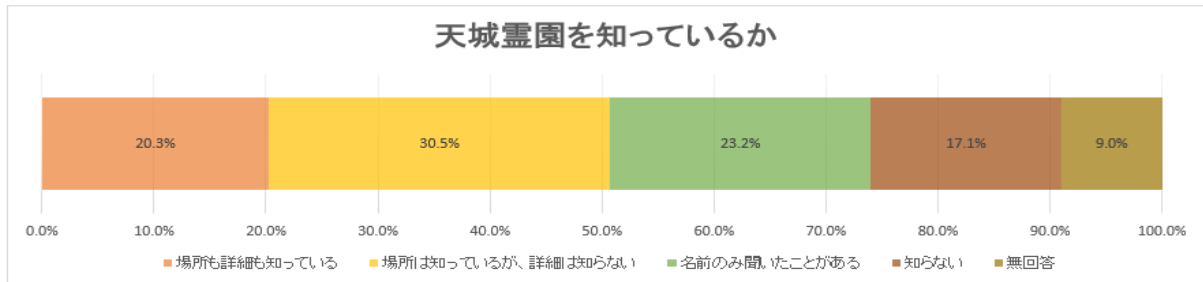


■天城霊園を知っているか・天城霊園を検討するか■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問11-1 天城霊園を知っているか

場所も詳細も知っている	95	20.3%
場所は知っているが、詳細は知らない	143	30.5%
名前のみ聞いたことがある	109	23.2%
知らない	80	17.1%
無回答	42	9.0%
合計	469	100.0%



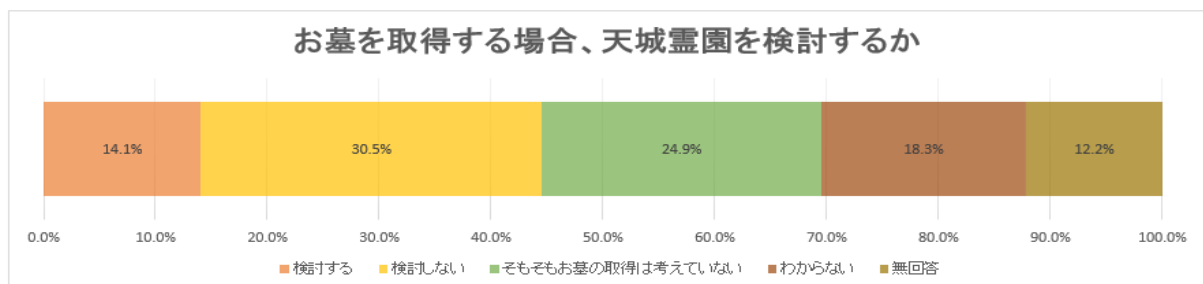
天城霊園は都市計画施設であり、単なる「墓所区画を提供する処」なのではなく、多目的に公園の様な形で市民が利用することも想定して計画なされた施設である。

であるにもかかわらず、「知らない」が17.1%。「名前のみ聞いたことがある」は23.2%と、「無回答」も加えると、5割弱になる。これは、下掲「問11-2 お墓を取得する場合、天城霊園を検討するか」にたいする回答は、ほぼ「天城霊園」の認知状況を反映させていることが窺がえる。つまり、検討なされるべき「伊東市営天城霊園第3期計画」の内容とは、単に墓域の拡張(ないしは「お墓」などに関して)多様化するニーズに合わせるだけに留まるのではなく、都市施設「天城霊園」の本来目的ともいえる、「公園の様な形で市民が憩うことが出来る空間」としての整備が求められている思料される処であるし、そうした取り組みが - 引いては - 「お墓」を取得する際における天城霊園の検討につながると思われる。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問11-2 お墓を取得する場合、天城霊園を検討するか

検討する	66	14.1%
検討しない	143	30.5%
そもそもお墓の取得は考えていない	117	24.9%
わからない	86	18.3%
無回答	57	12.2%
合計	469	100.0%

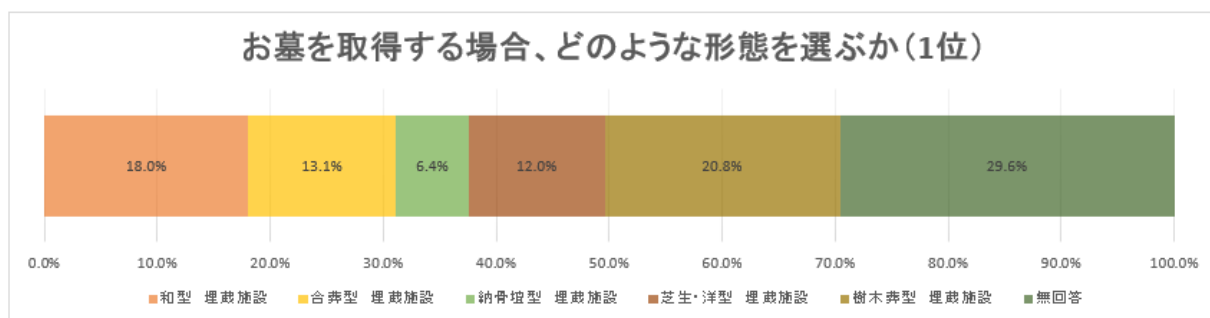


■お墓を求める場合は「どのような形態」を選ぶか■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

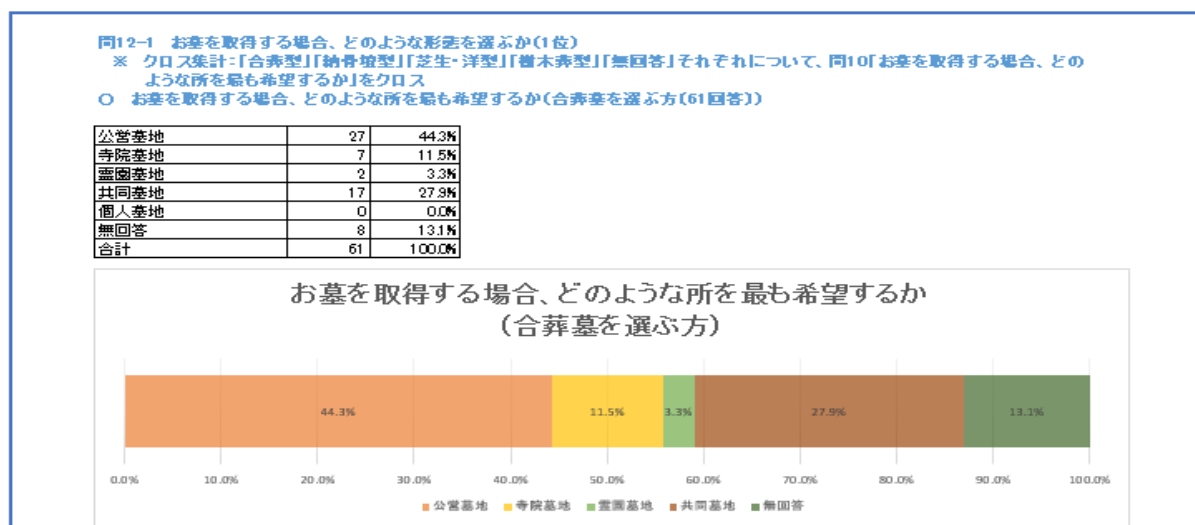
問12-1 お墓を取得する場合、どのような形態を選ぶか(1位)

和型 埋蔵施設	84	18.0%
合葬型 埋蔵施設	61	13.1%
納骨壇型 埋蔵施設	30	6.4%
芝生・洋型 埋蔵施設	56	12.0%
樹木葬型 埋蔵施設	97	20.8%
無回答	138	29.6%
合計	466	100.0%



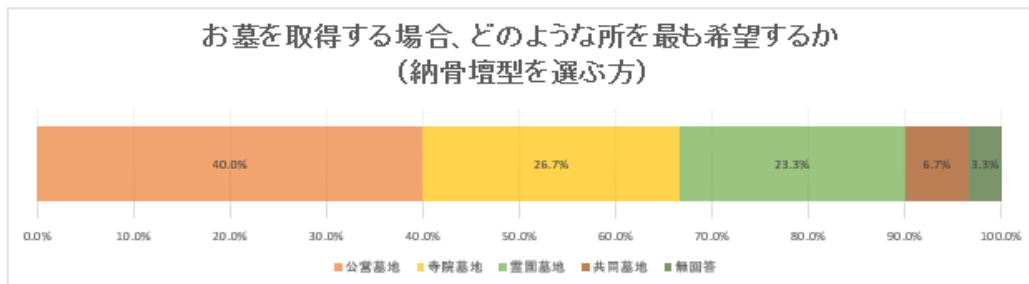
「樹木葬型」が20.8%。続いて、従来型の「和型」18.0%、3位には「合葬型」13.1%。続いて僅差で - これも「従来型」と称して良いであろう - 「芝生・洋型」が12.0%という構成である。「無回答」が29.6%。3割近く占めるのも注目される。以下、必要に応じてクロス集計を行った。

ここでは「伊東市営天城霊園第3期計画」も睨んで、「お墓」の形態別、特に「合葬型」「納骨壇型」「芝生・洋型」「樹木葬型」に注目し、それら各々の形態への回答別に志向される「場所」(経営主体)の傾向■お墓を求める場合は「どのような処(経営主体)」か■の結果をクロスさせた。結果、「公営墓地」が何れの形態を選んだ回答においても、40.0%(「納骨壇型」)から49.5%(「樹木葬型」)と、最も多い。逆に「寺院墓地」「霊園墓地」で志向される形態の特徴としては、「納骨壇型」「芝生・洋型」が比較的偏るように思料される。「樹木葬型」は「霊園墓地」が(「公営墓地」に次いで)志向されている傾向が明らかとなった。



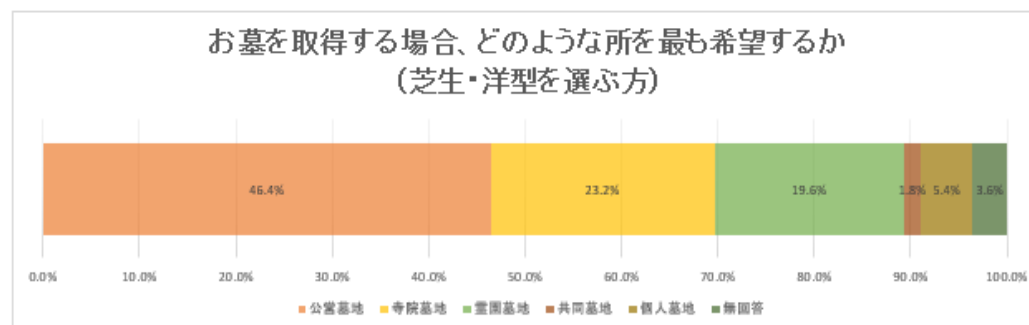
○ お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか(納骨壇型を選ぶ方(30回答))

公営墓地	12	40.0%
寺院墓地	8	26.7%
霊園墓地	7	23.3%
共同墓地	2	6.7%
個人墓地	0	0.0%
無回答	1	3.3%
合計	30	100.0%



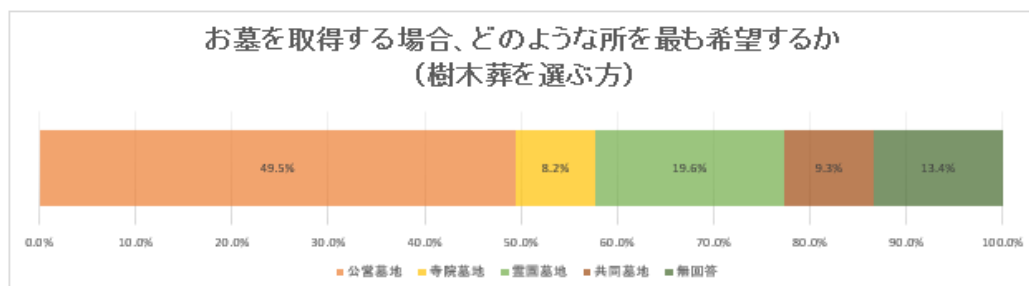
○ お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか(芝生・洋型を選ぶ方(56回答))

公営墓地	26	46.4%
寺院墓地	13	23.2%
霊園墓地	11	19.6%
共同墓地	1	1.8%
個人墓地	3	5.4%
無回答	2	3.6%
合計	56	100.0%



○ お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか(樹木葬を選ぶ方(97回答))

公営墓地	48	49.5%
寺院墓地	8	8.2%
霊園墓地	19	19.6%
共同墓地	9	9.3%
個人墓地	0	0.0%
無回答	13	13.4%
合計	97	100.0%



■お墓を求める場合は「どのような形態」を選ぶか■(続き)

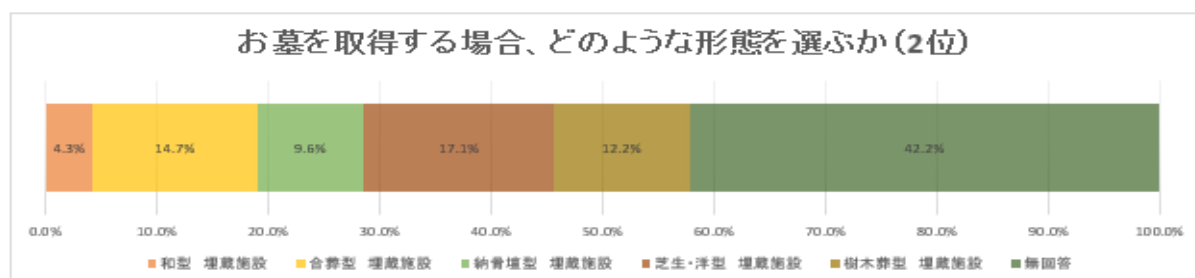
ここでは、第1位希望以下を尋ねると、その回答に変遷が認められるのか確認する意味も含めて設問した。しかし、結果としては、第1位希望で29.6%、3割近く占めた「無回答」の割合が第2位希望では42.2%。第3位希望では58.4%と増加するばかりであった(なお、【天城霊園使用者】でもほぼ同様の推移・変化であった)。

つまり、「お墓」に対して意識が多様化しているという様な喧伝がなされる。しかし、その内実(現実)はひとつ目を選択(ここでは「第1位希望」)に対して、「それが選択出来ない場合の選択」ということが出来ない、あるいはそれ以上踏み込んだ検討が回答者のなかで準備されていないことが窺える。これは提供者側の課題でもある。つまりは「納骨堂」と見紛う施設を「合葬型」と称したり、施設の内実が「合葬型」であっても、外見のデザインに樹木があしらわれていれば、それは「樹木葬型」とも言い換えられる。今後、提供する側は施設の形状と運用 - 主に焼骨の管理方法 - について「分かりやすい・整理された」説明・提示をすることが求められると思料される。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

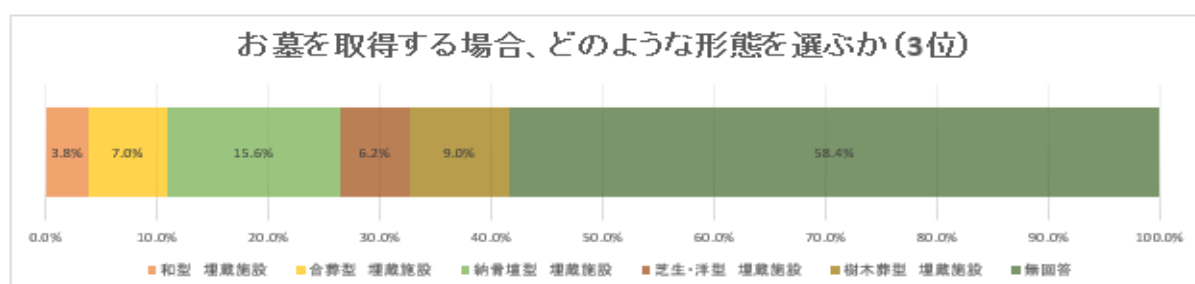
問12-1 お墓を取得する場合、どのような形態を選ぶか(2位)

和型 埋葬施設	20	4.3%
合葬型 埋葬施設	69	14.7%
納骨壇型 埋葬施設	45	9.6%
芝生・洋型 埋葬施設	80	17.1%
樹木葬型 埋葬施設	57	12.2%
無回答	198	42.2%
合計	469	100.0%



問12-1 お墓を取得する場合、どのような形態を選ぶか(3位)

和型 埋葬施設	18	3.8%
合葬型 埋葬施設	33	7.0%
納骨壇型 埋葬施設	73	15.6%
芝生・洋型 埋葬施設	29	6.2%
樹木葬型 埋葬施設	42	9.0%
無回答	274	58.4%
合計	469	100.0%



■承継者(継承者)がいないなどの場合に選ぶ形態■

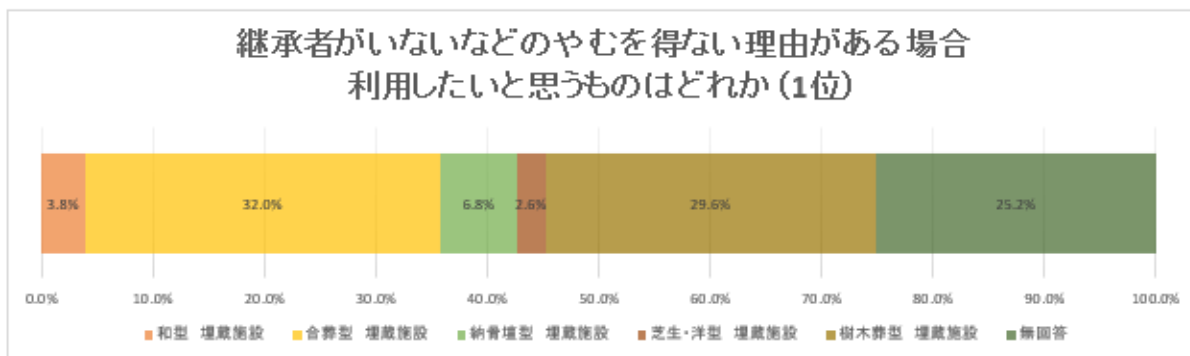
【伊東市(天城霊園利用者外)市民】に対するアンケートでも、【天城霊園利用者】のアンケートでも同じく尋ねているので、共に挙げて比較した。

共に「合葬型」「樹木葬型」(それと「無回答」)の割合が3割前後ずつで回答の殆どを占めることが明らかとなった。

【伊東市(天城霊園利用者外)市民】

問12-2 継承者がいないなどのやむを得ない理由がある場合、利用したいと思うものはどれか(1位)

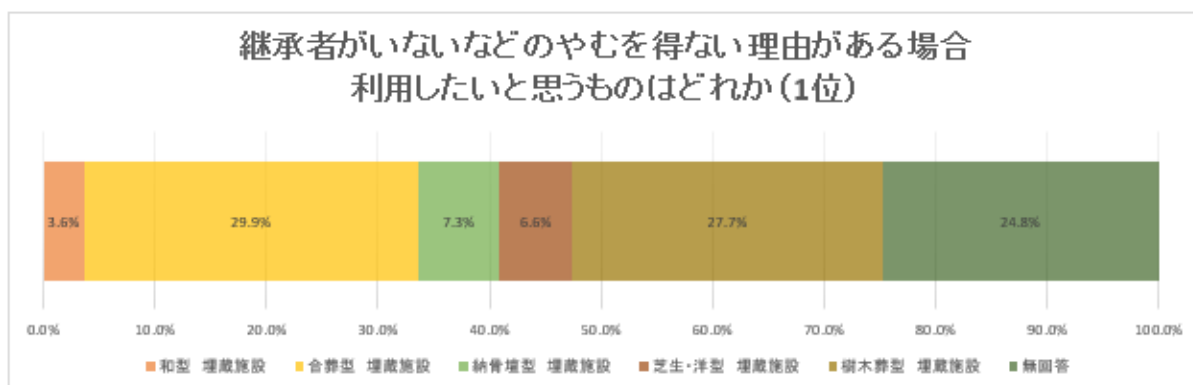
和型 埋葬施設	18	3.8%
合葬型 埋葬施設	150	32.0%
納骨壇型 埋葬施設	32	6.8%
芝生・洋型 埋葬施設	12	2.6%
樹木葬型 埋葬施設	139	29.6%
無回答	118	25.2%
合計	469	100.0%



■参考■【天城霊園利用者】

問7-4 継承者がいないなどのやむを得ない理由がある場合、利用したいと思うものはどれか(1位)

和型 埋葬施設	5	3.6%
合葬型 埋葬施設	41	29.9%
納骨壇型 埋葬施設	10	7.3%
芝生・洋型 埋葬施設	9	6.6%
樹木葬型 埋葬施設	38	27.7%
無回答	34	24.8%
合計	137	100.0%



■お墓を求める場合は「どのような処(経営主体)」か■

既往の他調査結果においても、「公営墓地」を(第1位に)希望した回答者も、その選択が適わなかった場合、その多くが「霊園墓地」を志向する傾向であることが明らかとなっている。

■お墓を求める場合は「どのような形態」を選ぶか■

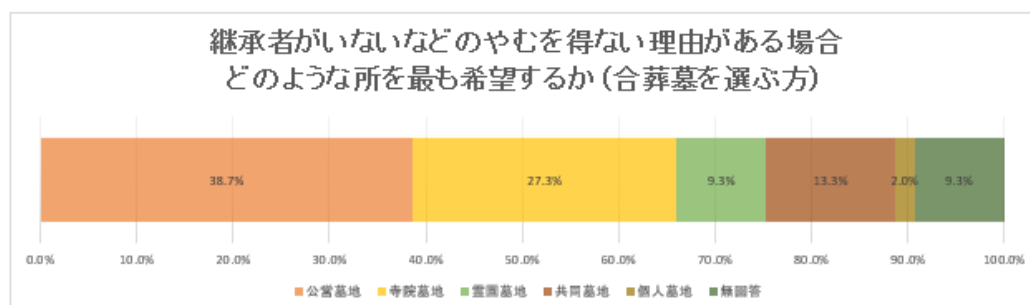
「樹木葬型」は「霊園墓地」が(「公営墓地」に次いで)志向されている傾向が明らかとなった。

問12-2 継承者がいないなどのやむを得ない理由がある場合、利用したいと思うものはどれか(1位)

※ クロス集計:「合葬型」「樹木葬型」それぞれについて、問10「お墓を取得する場合、どのような所を最も希望するか」をクロス

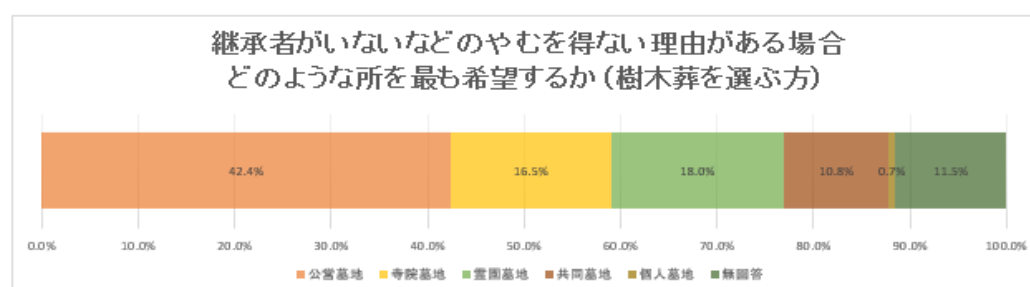
○ 継承者がいないなどのやむを得ない理由がある場合、どのような所を最も希望するか(合葬墓を選ぶ方(150回答))

公営墓地	58	38.7%
寺院墓地	41	27.3%
霊園墓地	14	9.3%
共同墓地	20	13.3%
個人墓地	3	2.0%
無回答	14	9.3%
合計	150	100.0%



○ 継承者がいないなどのやむを得ない理由がある場合、どのような所を最も希望するか(樹木葬を選ぶ方(139回答))

公営墓地	59	42.4%
寺院墓地	23	16.5%
霊園墓地	25	18.0%
共同墓地	15	10.8%
個人墓地	1	0.7%
無回答	16	11.5%
合計	139	100.0%



※ クロス集計:問12-2「無回答」について、問11-2「お墓を取得する場合、天城霊園を検討するか」とクロス

■承継者(継承者)がいないなどの場合に選ぶ形態■(続き)

ここでは、第1位希望以下を尋ねると、その回答に変遷が認められるのか確認する意味も含めて設問した。しかし、結果としては、第1位希望で25.2%、1/4以上を占めた「無回答」の割合が第2位希望では50.5%。第3位希望では69.9%と増加する。

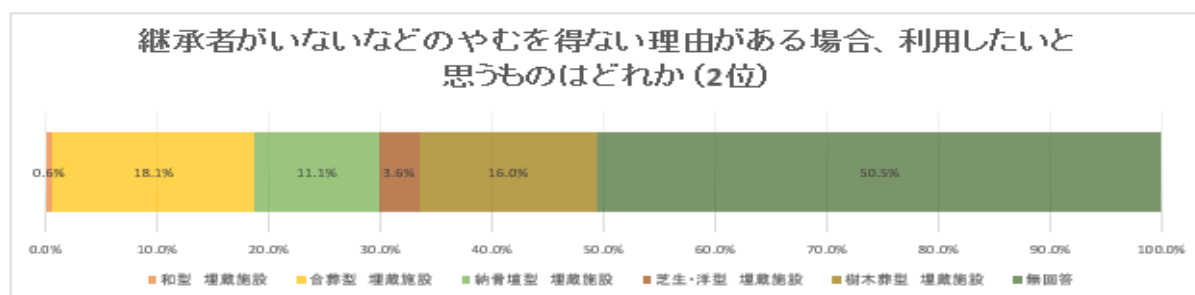
この傾向は、前述した「■お墓を求める場合は「どのような形態」を選ぶか■(続き)」よりも顕著である(なお、【天城霊園使用者】でも同様に推移・変化)。以後に述べる「■問12-3」や「■問12-4」、「■問6-2「墓じまい」を検討している理由■」でも、同じことがいえる。

つまり、「お墓」に対して意識が「多様化」という様な喧伝がなされるが、内実(現実)は、ひとつ目を選択(「第1位希望」)の漠然としたイメージに留まり、「それが選択出来ない場合の選択」が回答者のなかで準備されていない。これは提供者側の課題でもある。つまりは「納骨堂」と見紛う施設を「合葬型」。施設の内実が「合葬型」でも外見のデザインが樹木で装った「樹木葬型」。今後、提供する側は施設の形状と運用には「分かりやすい・整理された」説明・提示が求められる。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

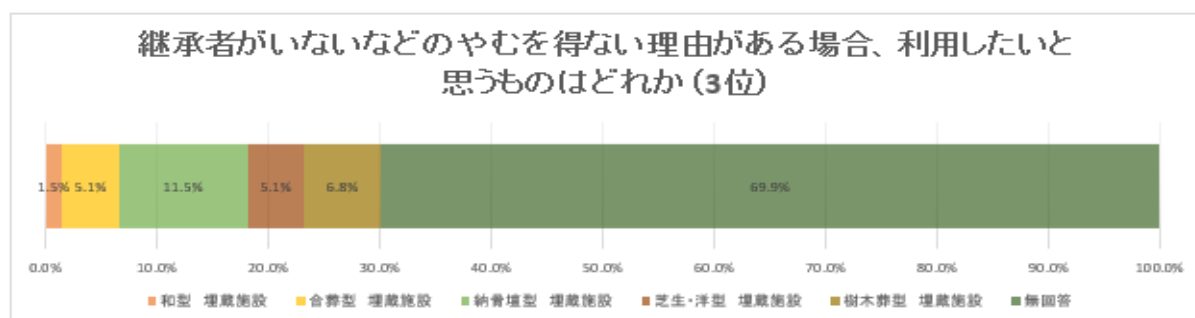
問12-2 継承者がいないなどのやむを得ない理由がある場合、利用したいと思うものはどれか(2位)

和型 埋葬施設	3	0.6%
合葬型 埋葬施設	85	18.1%
納骨壇型 埋葬施設	52	11.1%
芝生・洋型 埋葬施設	17	3.6%
樹木葬型 埋葬施設	75	16.0%
無回答	237	50.5%
合計	469	100.0%



問12-2 継承者がいないなどのやむを得ない理由がある場合、利用したいと思うものはどれか(3位)

和型 埋葬施設	7	1.5%
合葬型 埋葬施設	24	5.1%
納骨壇型 埋葬施設	54	11.5%
芝生・洋型 埋葬施設	24	5.1%
樹木葬型 埋葬施設	32	6.8%
無回答	328	69.9%
合計	469	100.0%



■今後、市が整備すべき(と思うお墓の形態)■

合葬式か樹木葬のいずれか。どちらかという合葬式。ただ、合葬式と樹木葬は異なる施設なのかという点で、納骨スペースを設けながら、その施設を土で覆うなどしてそこに植樹をしたり、ということで両者のニーズを合致させた施設を構築することも可能。

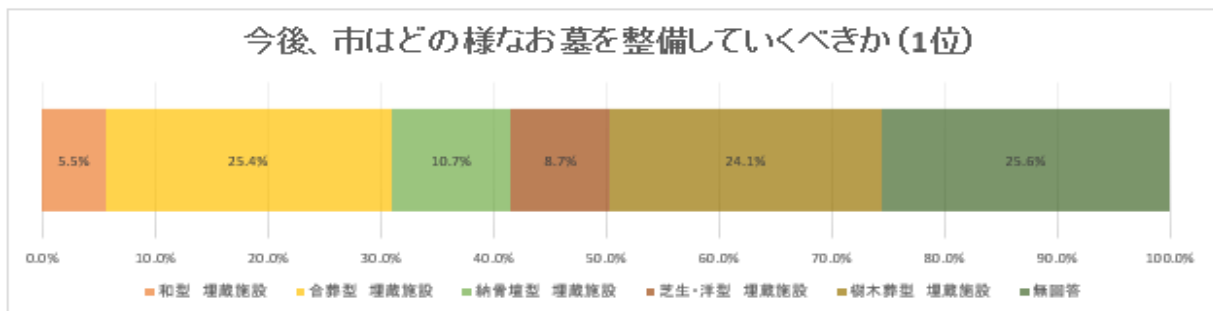
また、そうした「樹木葬」でないと、収容数、メンテナンスの負担が大きい。とくに天城霊園の園内では野生動物による食害が指摘されていることなどからも難しい問題を孕むことになる。

前述■お墓を求める場合は「どのような処(経営主体)」か■においても「今後の市営霊園で望まれている(「お墓」の)形態は、これまで天城霊園で提供されてきた形態ではないものが求められていることも思料しなくてはならない」と述べたが、ここでその「形態」について明らかとなった。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問12-3 今後、市はどのようなお墓を整備していくべきか(1位)

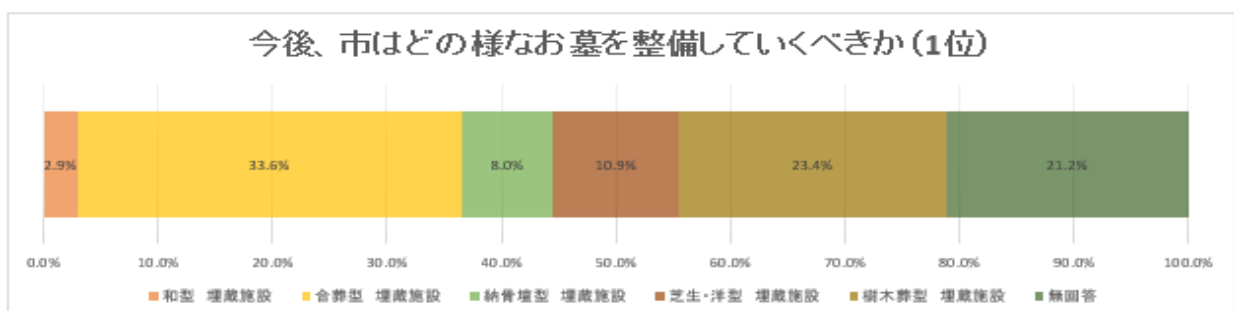
和型 埋葬施設	26	5.5%
合葬型 埋葬施設	119	25.4%
納骨壇型 埋葬施設	50	10.7%
芝生・洋型 埋葬施設	41	8.7%
樹木葬型 埋葬施設	113	24.1%
無回答	120	25.6%
合計	469	100.0%



■参考■【天城霊園使用者】

問7-5 今後、市はどのようなお墓を整備していくべきか(1位)

和型 埋葬施設	4	2.9%
合葬型 埋葬施設	46	33.6%
納骨壇型 埋葬施設	11	8.0%
芝生・洋型 埋葬施設	15	10.9%
樹木葬型 埋葬施設	32	23.4%
無回答	29	21.2%
合計	137	100.0%



■今後、市が整備すべき(と思うお墓の形態) ■(続き)

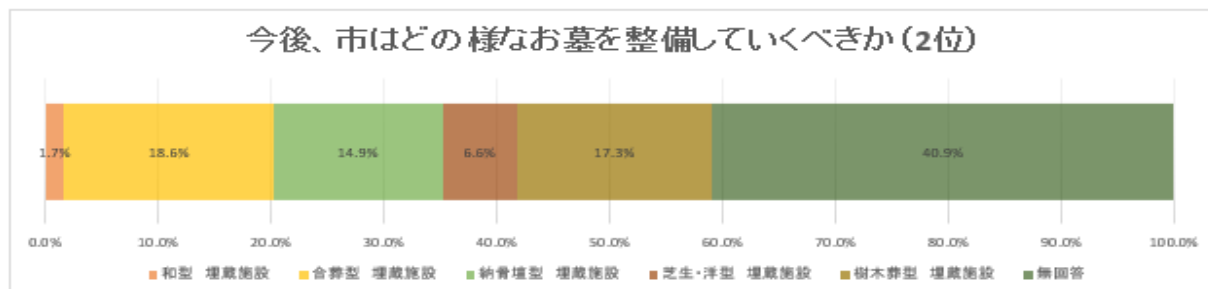
ここでは、第1位希望以下を尋ねると、その回答に変遷が認められるのか確認する意味も含めて設問した。しかし、結果としては、第1位希望で25.5%、1/4以上を占めた「無回答」の割合が第2位希望では40.9%。第3位希望では69.9%と増加する。この傾向は、前述した「■問12-2 承継者(継承者)がいないなどの場合に選ぶ形態 ■(続き)」。後に述べる「■問12-4 今後、市以外の民間が整備すべき(と思うお墓の形態) ■(続き)」 「■問6-2「墓じまい」を検討している理由 ■」でも、同じことがいえる。

つまり、「お墓」に対して意識が「多様化」という様な喧伝がなされるが、内実(現実)は、ひとつ目を選択(「第1位希望」)の漠然としたイメージに留まり、「それが選択出来ない場合の選択」が回答者のなかで準備されていない。これは提供者側の課題でもある。つまりは「納骨堂」と見紛う施設を「合葬型」。施設の内実が「合葬型」でも外見のデザインが樹木で装った「樹木葬型」。今後、提供する側は施設の形状と運用には「分かりやすい・整理された」説明・提示が求められる。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

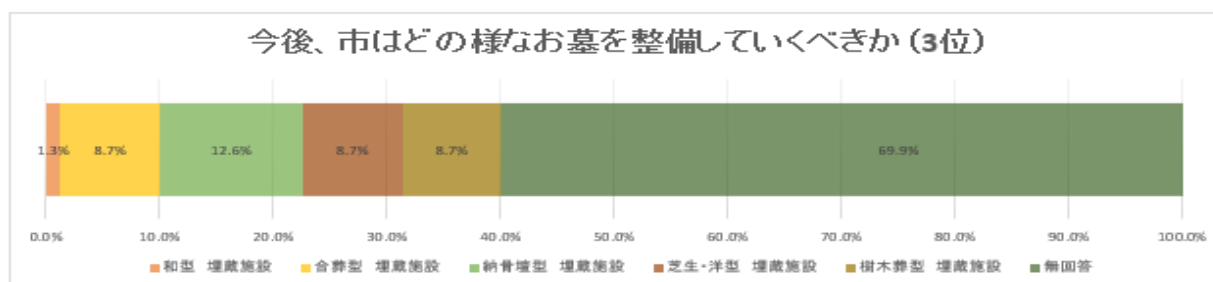
問12-3 今後、市はどのようなお墓を整備していくべきか(2位)

和型 埋葬施設	8	1.7%
合葬型 埋葬施設	87	18.6%
納骨壇型 埋葬施設	70	14.9%
芝生・洋型 埋葬施設	31	6.6%
樹木葬型 埋葬施設	81	17.3%
無回答	192	40.9%
合計	469	100.0%



問12-3 今後、市はどのようなお墓を整備していくべきか(3位)

和型 埋葬施設	6	1.3%
合葬型 埋葬施設	41	8.7%
納骨壇型 埋葬施設	59	12.6%
芝生・洋型 埋葬施設	41	8.7%
樹木葬型 埋葬施設	41	8.7%
無回答	328	69.9%
合計	516	110.0%

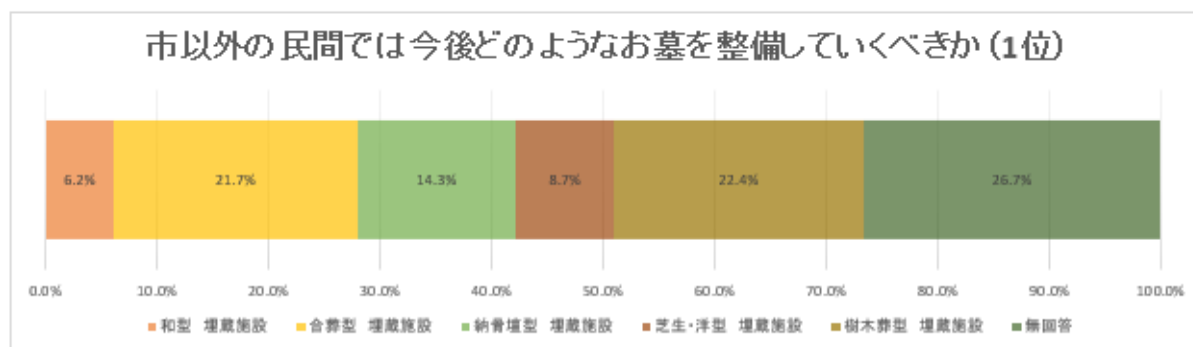


■今後、市以外の民間が整備すべき(と思うお墓の形態)■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問12-4 市以外の民間では今後どのようなお墓を整備していくべきか(1位)

和型 埋蔵施設	29	6.2%
合葬型 埋蔵施設	102	21.7%
納骨壇型 埋蔵施設	67	14.3%
芝生・洋型 埋蔵施設	41	8.7%
樹木葬型 埋蔵施設	105	22.4%
無回答	125	26.7%
合計	469	100.0%



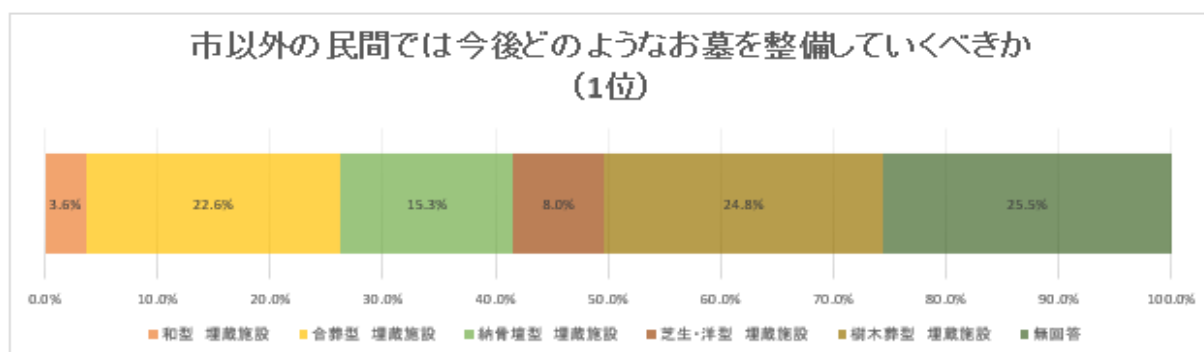
【伊東市(天城霊園使用者外)市民】に対するアンケートでも、【天城霊園使用者】のアンケートでも同じく尋ねているので、共に挙げて比較した。共に「合葬型」「樹木葬型」(それと「無回答」)の割合が2割程度ずつ、合計7割を超える回答の殆どを占めることが明らかとなった(ちなみに「合葬型」より「樹木葬型」の回答がやや多い)。

この他、「納骨壇型」が2割弱でこれに続く。但し、提供する側においては、こうしたニーズの傾向について配慮しつつも、現実立脚した計画を立案することが求められる。

■参考■【天城霊園使用者】

問7-6 市以外の民間では今後どのようなお墓を整備していくべきか(1位)

和型 埋蔵施設	5	3.6%
合葬型 埋蔵施設	31	22.6%
納骨壇型 埋蔵施設	21	15.3%
芝生・洋型 埋蔵施設	11	8.0%
樹木葬型 埋蔵施設	34	24.8%
無回答	35	25.5%
合計	137	100.0%



■今後、市以外の民間が整備すべき(と思うお墓の形態) ■(続き)

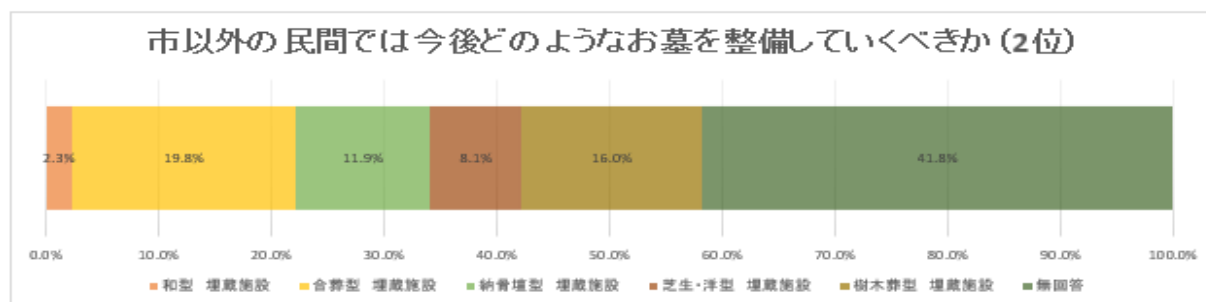
ここでは、第1位希望以下を尋ねると、その回答に変遷が認められるのか確認する意味も含めて設問した。しかし、結果としては、第1位希望で26.7%、1/4以上を占めた「無回答」の割合が第2位希望では41.8%。第3位希望では57.5%と増加する。この傾向は、前述した「■問12-2 承継者(継承者)がいないなどの場合に選ぶ形態 ■(続き)」や「■問12-3 今後、市が整備すべき(と思うお墓の形態) ■(続き)」。後に触れる「■問6-2「墓じまい」を検討している理由■」でも、同じことがいえる。

つまり、「お墓」に対して意識が「多様化」という様な喧伝がなされるが、内実(現実)は、ひとつ目を選択(「第1位希望」)の漠然としたイメージに留まり、「それが選択出来ない場合の選択」が回答者のなかで準備されていない。これは提供者側の課題でもある。つまりは「納骨堂」と見紛う施設を「合葬型」。施設の内実が「合葬型」でも外見のデザインが樹木で装った「樹木葬型」。今後、提供する側は施設の形状と運用には「分かりやすい・整理された」説明・提示が求められる。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

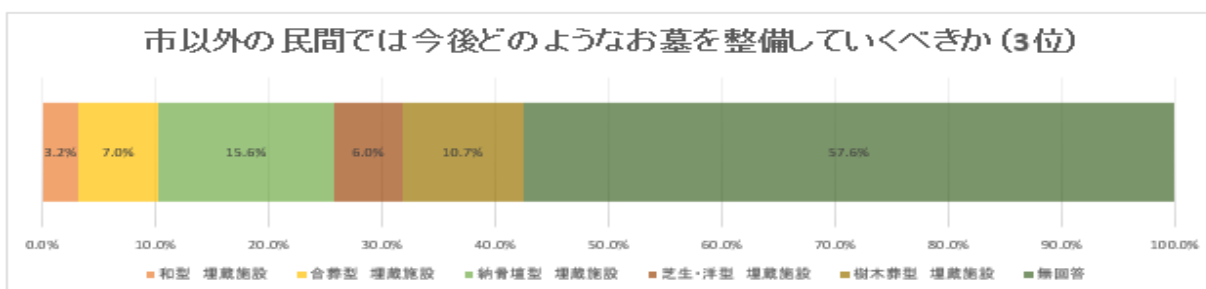
問12-4 市以外の民間では今後どのようなお墓を整備していくべきか(2位)

和型 埋蔵施設	11	2.3%
合葬型 埋蔵施設	93	19.8%
納骨壇型 埋蔵施設	56	11.9%
芝生・洋型 埋蔵施設	38	8.1%
樹木葬型 埋蔵施設	75	16.0%
無回答	196	41.8%
合計	469	100.0%



問12-4 市以外の民間では今後どのようなお墓を整備していくべきか(3位)

和型 埋蔵施設	15	3.2%
合葬型 埋蔵施設	33	7.0%
納骨壇型 埋蔵施設	73	15.6%
芝生・洋型 埋蔵施設	28	6.0%
樹木葬型 埋蔵施設	50	10.7%
無回答	270	57.6%
合計	469	100.0%

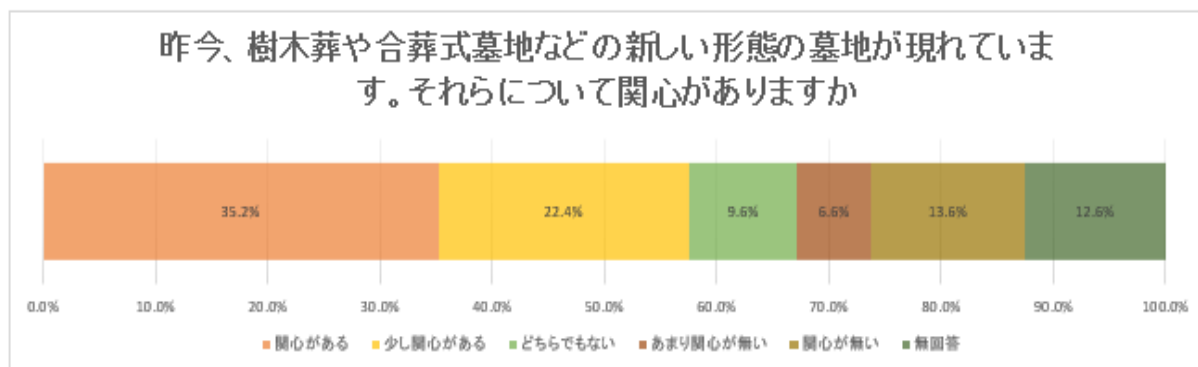


■新しい形態の墓地に対する関心の有無■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

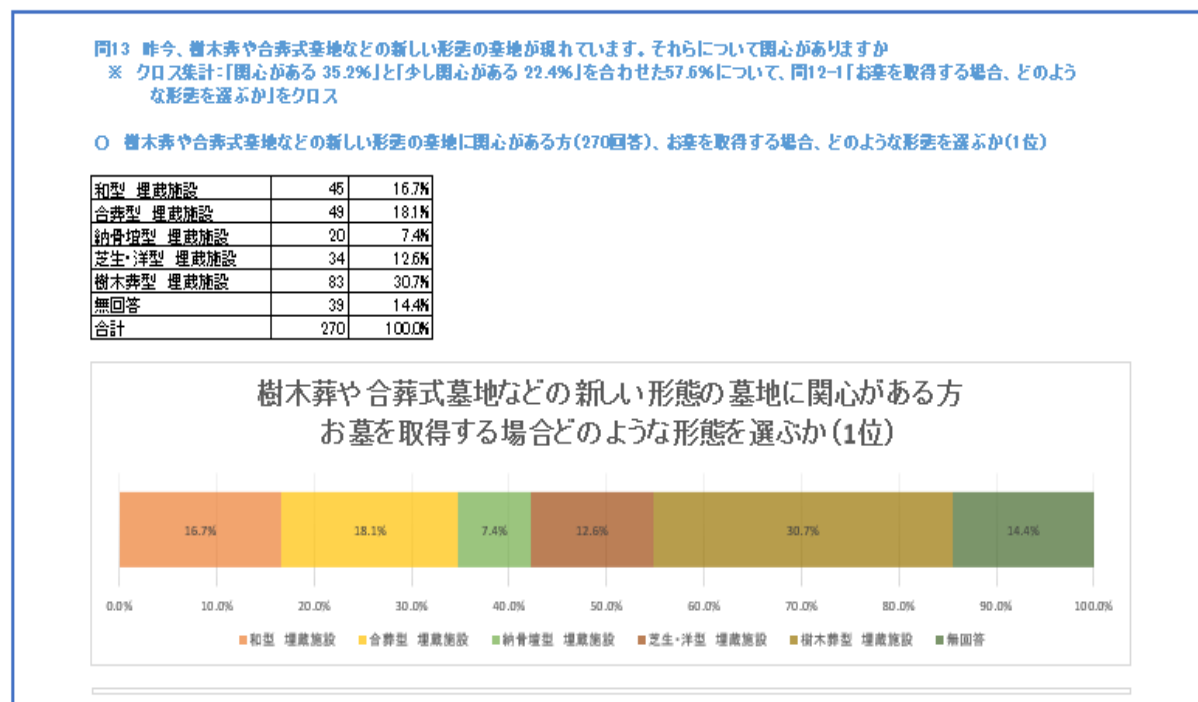
問13 昨今、樹木葬や合葬式墓地などの新しい形態の墓地が現れています。それらについて関心がありますか

関心がある	165	35.2%
少し関心がある	105	22.4%
どちらでもない	45	9.6%
あまり関心が無い	31	6.6%
関心が無い	64	13.6%
無回答	53	12.6%
合計	463	100.0%



上記の「関心がある」「少し関心がある」という回答者の内、彼らが具体的にどのような形態を希望しているのか、前述■お墓を求める場合は「どのような形態」を選ぶか■の結果とクロス集計すると以下の通り。「新しい形態」の「お墓」というと、まずは「樹木葬型」が思い起こされる(30.7%)ことが明らかとなった。

また、「合葬型」が18.1%であった他方で、ほぼその値に等しい16.7%もの回答者が、従来型ともいえる「和型」を「新しい形態」の「お墓」を選んでいることには注目される。



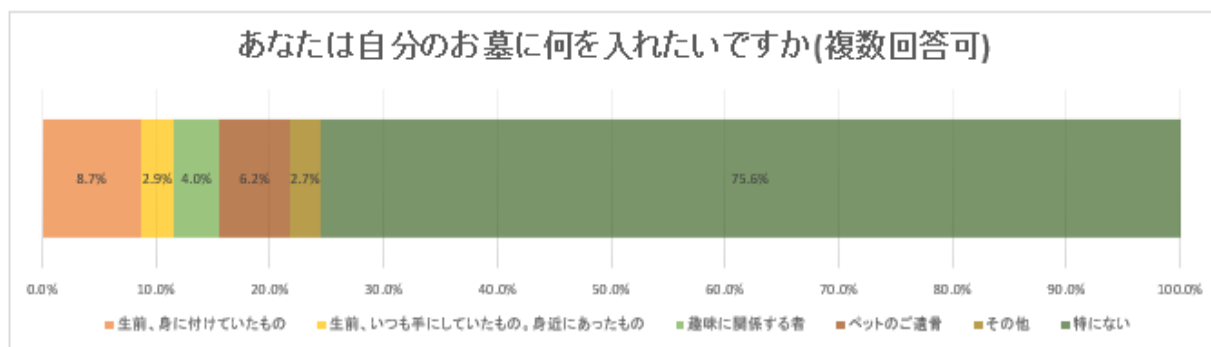
■自分のお墓に何を入りたいか(副葬品について)■

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】【天城霊園使用者】共に「特にない」という回答が7割をこえた。副葬品をおさめることを想定している残り3割の内訳としては、「生前、身に付けていたもの」が約1割。「ペット」がこれに続いた。【天城霊園使用者】の方が「副葬品を入りたい」という志向がやや多い(【伊東市(天城霊園使用者外)市民】24.4%。【天城霊園使用者】29.6%)。

【伊東市(天城霊園使用者外)市民】

問14 あなたは自分のお墓に何を入りたいですか(複数回答可)

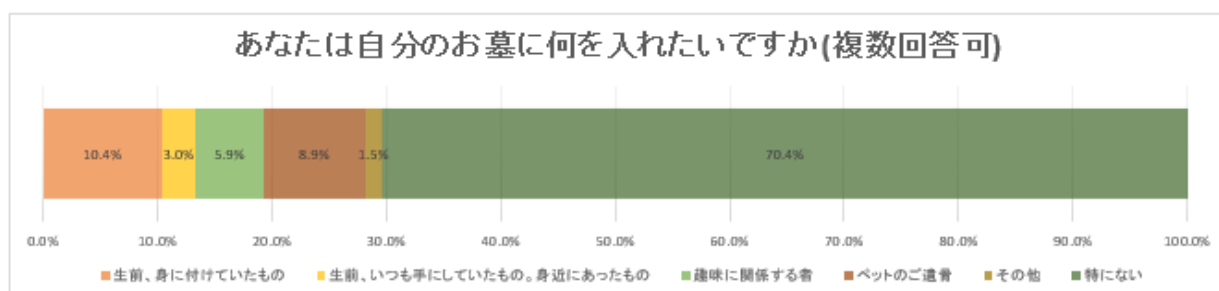
生前、身に付けていたもの	39	8.7%
生前、いつも手にしていたもの。身近にあったもの	13	2.9%
趣味に関係する者	18	4.0%
ペットのご遺骨	28	6.2%
その他	12	2.7%
特にない	340	75.6%
合計	450	100.0%



■参考■【天城霊園使用者】

問8 あなたは自分のお墓に何を入りたいですか(複数回答可)

生前、身に付けていたもの	14	10.4%
生前、いつも手にしていたもの。身近にあったもの	4	3.0%
趣味に関係する者	8	5.9%
ペットのご遺骨	12	8.9%
その他	2	1.5%
特にない	95	70.4%
合計	135	100.0%



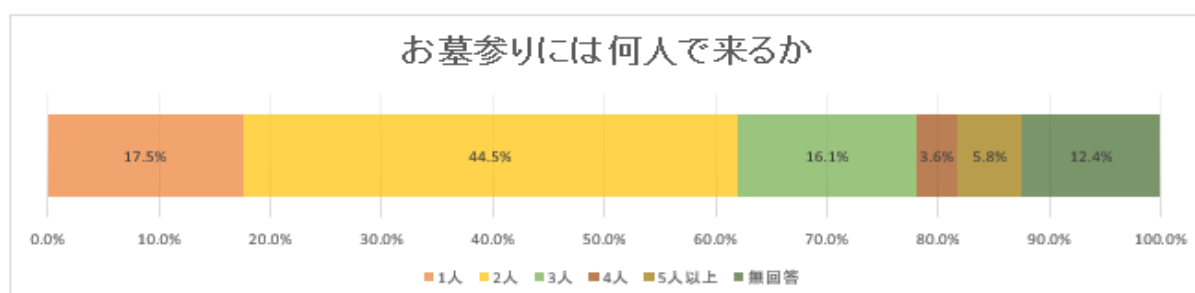
第3章 調査結果(「天城霊園」のみ)

(「一般市民」対象調査では尋ねなかった「天城霊園使用者」対象結果を中心として)

【天城霊園使用者】

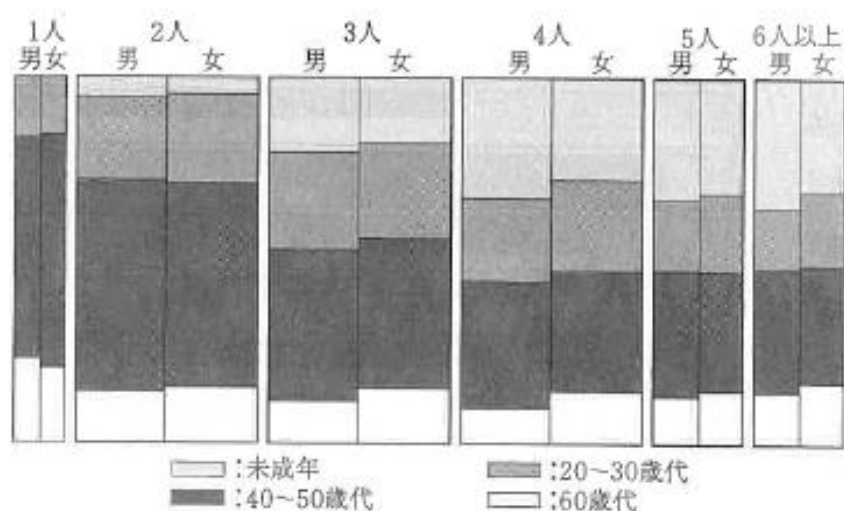
問4 およそ何人で来ますか

1人	24	17.5%
2人	61	44.5%
3人	22	16.1%
4人	5	3.6%
5人以上	8	5.8%
無回答	17	12.4%
合計	137	100.0%



上記回答を見定めるには「補助線」が必要である。ここでは墓地管理講習会テキスト「墓地の需要予測と計画」(公益社団法人 全日本墓園協会)に拠った。これは大規模墓地の墓参行為を分析したものである。同分析では、墓参者のグループの構成は2人が23%。3人も同じく23%。1人が5%であった。これに対して、天城霊園の墓参者は2人44.5%。1人が17.5%であり、3人は16.1%であった。「墓参者」として霊園に訪れる員数は、他の全般的な傾向と比べると、天城霊園への墓参は少人数で行われていると、思料することが出来るであろう。

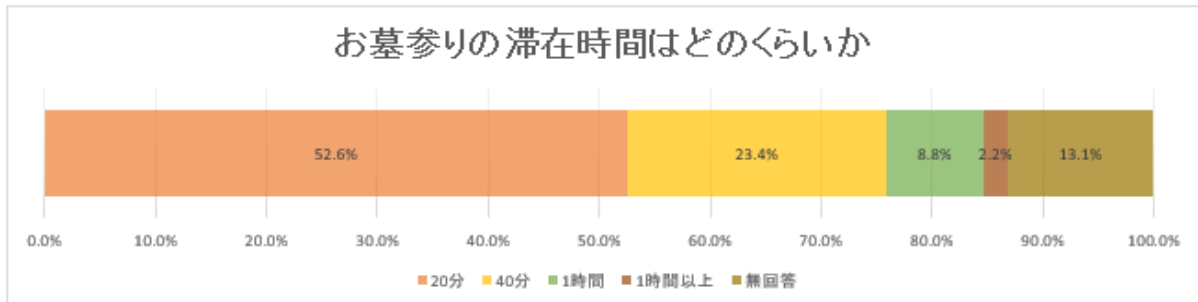
■参考■墓地管理講習会テキスト「墓地の需要予測と計画」(公益社団法人 全日本墓園協会)より
墓参グループの人数・年齢・性別



【天城霊園使用者】

問5 滞在時間はどのくらいか

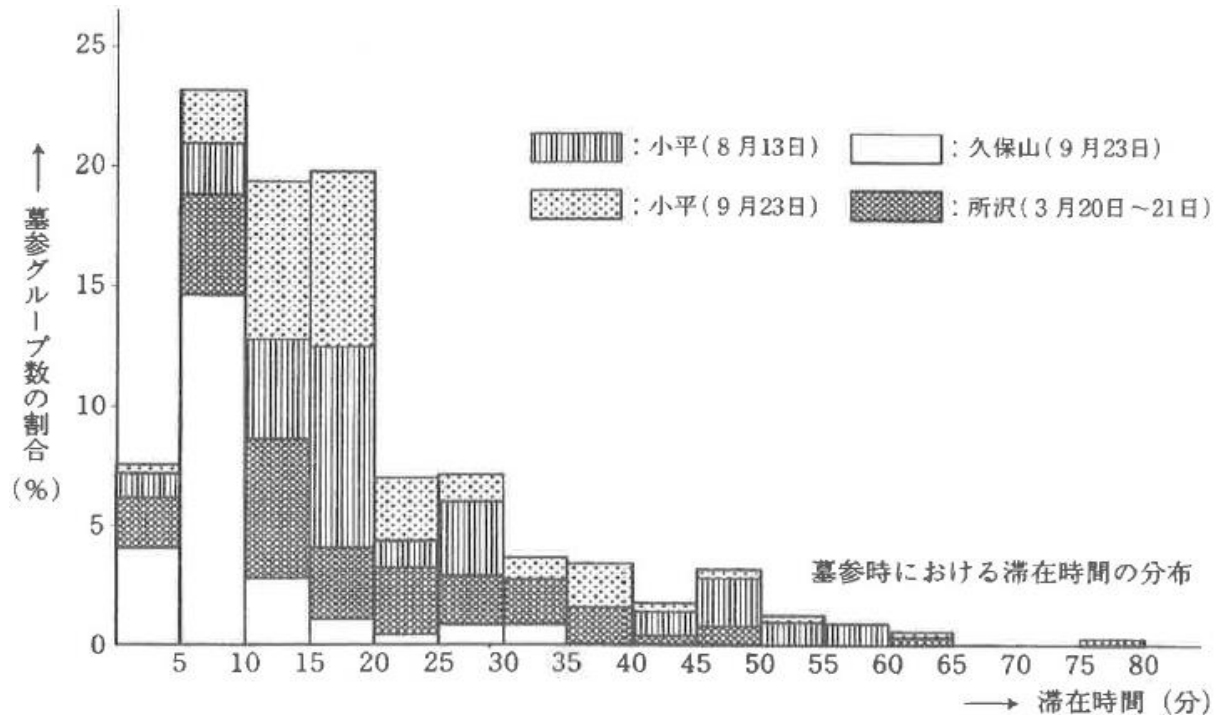
20分	72	52.6%
40分	32	23.4%
1時間	12	8.8%
1時間以上	3	2.2%
無回答	18	13.1%
合計	137	100.0%



上記回答を見定めるには「補助線」が必要である。ここでは墓地管理講習会テキスト「墓地の需要予測と計画」(公益社団法人 全日本墓園協会)に拠った。これは大規模墓地の墓参行為を分析したものである。同分析では、5～20 分の頻度が最も高い。これに対して天城霊園での墓参に際しての滞在時間は 40 分～60 分(1 時間)が全体 3 割近くを占める。

ただ、「1 時間以上」という回答が 2.2%であったことも考えると、ここでの回答者は、『お墓参り』の滞在時間」を答えた回答者の他に、霊園までの所要時間も含めた『お墓参り』の所要時間」を回答したケースもあるのではないかと思料される。

■参考■墓地管理講習会テキスト「墓地の需要予測と計画」(公益社団法人 全日本墓園協会)より

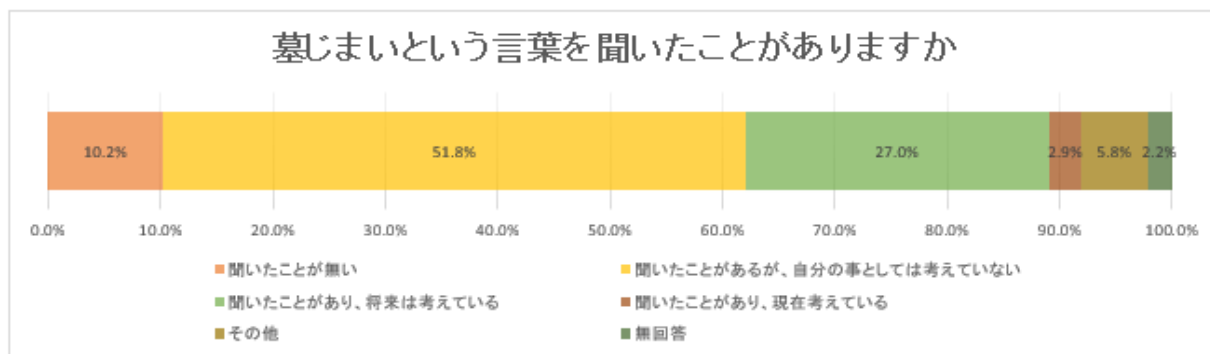


■「墓じまい」を聞いたことがあるか・検討している理由■

現在、膾炙されている「墓じまい」は単なる改葬も含めて使われている。ここで「聞いたことがある」というのは、言うまでもなく、前者、膾炙されている「墓じまい」のことであろう。「聞いたことがあるが、自分の事としては考えていない」という回答が51.8%と最も多かったが、「将来考えている」「現在考えている」を合わせると29.9%。ほぼ3割。比較出来る妥当なデータ、既往調査事例はないが、相当程度「高い」値である。これら回答を現実のものとするべく促せば、天城霊園では拡張をすることを検討しなくとも、既存墓所区画を循環させることも可能であろう。

問6-1 墓じまいという言葉を知ったことがありますか

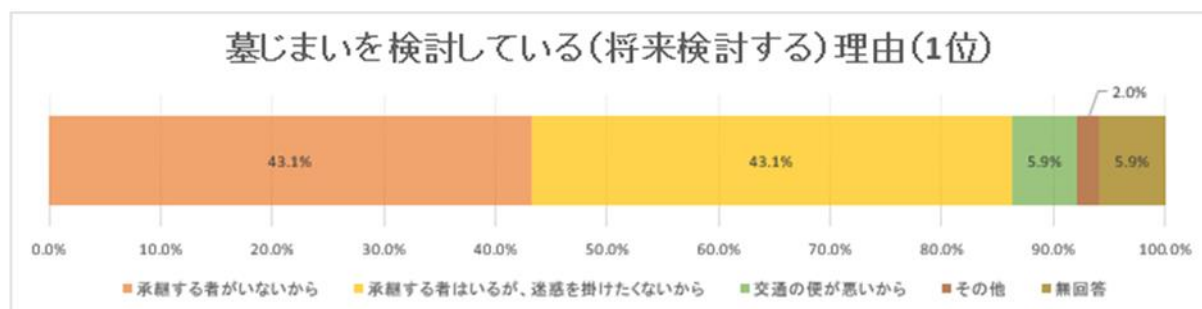
聞いたことが無い	14	10.2%
聞いたことがあるが、自分の事としては考えていない	71	51.8%
聞いたことがあり、将来は考えている	37	27.0%
聞いたことがあり、現在考えている	4	2.9%
その他	8	5.8%
無回答	3	2.2%
合計	137	100.0%



その「墓じまい」で、「将来考えている」「現在考えている」(及び「その他」他)と回答した理由について尋ねた。これら回答を現実のものとするべく促せば、天城霊園では拡張をすることを検討しなくとも、既存墓所区画を循環させてゆくことが可能となるからである。

問6-2 前問で聞いたことがあり、将来検討する、現在検討している、その他を回答した方、そのように考えた理由(1位)

承継する者がいないから	22	43.1%
承継する者はいるが、迷惑を掛けたくないから	22	43.1%
交通の便が悪いから	3	5.9%
その他	1	2.0%
無回答	3	5.9%
合計	51	100.0%



「墓じまい」とは、民俗学で使われる本来の意味では、故人の法要・弔いが終了し、故人の人格が失われ、いわゆる「〇〇家の先祖」に統合・昇華させる行為のことである。しかし、今日的な使われ方では、単なる改葬についても、その意味に含めて使われている。

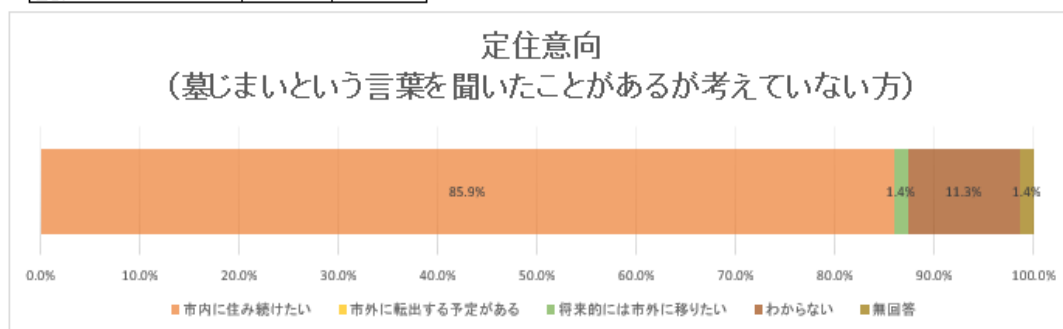
であるとするなら、その「墓じまい」について「将来考えている」「現在考えている」(及び「その他」)と回答した世帯においては、前項で自覚的に「検討している理由」として明らかになっていることの他に、アンケートで挙げた理由以外の「理由」、「背景」として(世帯の)特性があるのでは、と考えた。たとえば、最も相関性・因果性があると思われるのは「定住意向」である。以下に「墓じまい」を「考えている」か「考えていないか」の回答別に「定住意向」の違いの有無について確認を行ったが、その違いは認められないー相関性・因果性は窺えなかった。

問6-1 墓じまいという言葉聞いたことがありますか

※ クロス集計:「聞いたことがあるが考えていない(71回答)」と「聞いたことがあるが将来(現在)考えている(41回答)」それぞれについて「定住意向」をクロス

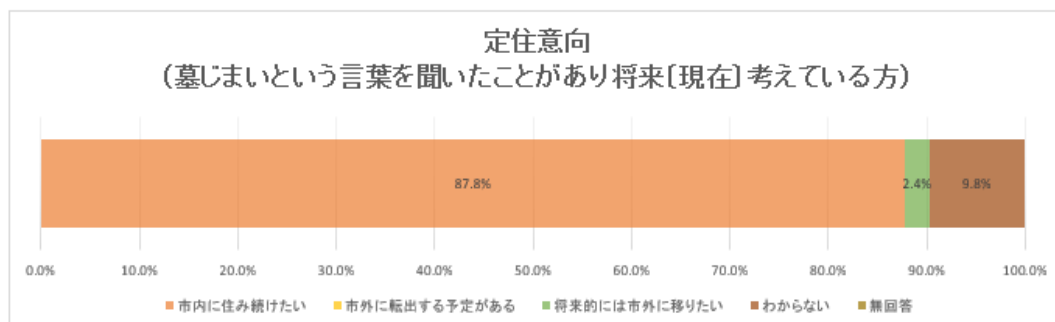
○ 墓じまいという言葉聞いたことがあるが考えていない方の定住意向

市内に住み続けたい	61	85.9%
市外に転出する予定がある	0	0.0%
将来的には市外に移りたい	1	1.4%
わからない	8	11.3%
無回答	1	1.4%
合計	71	100.0%



○ 墓じまいという言葉聞いたことがあるが将来(現在)考えている方の定住意向

市内に住み続けたい	36	87.8%
市外に転出する予定がある	0	0.0%
将来的には市外に移りたい	1	2.4%
わからない	4	9.8%
無回答	0	0.0%
合計	41	100.0%



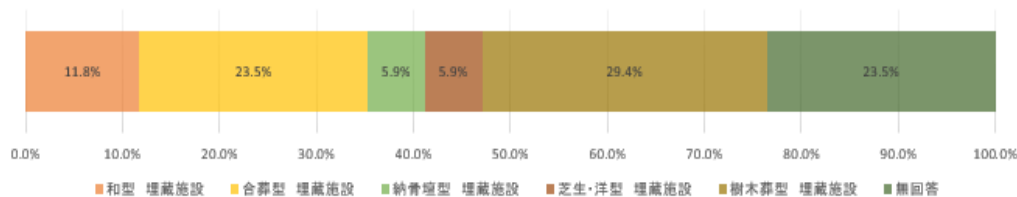
ここで、「墓じまい」の理由を「承継者がいない」場合と「承継者に迷惑をかけたくない」場合の各々について、「■お墓を求める場合は「どのような形態」を選ぶか■」の結果とのクロス集計を行なった。すると「承継者がいない」場合、「合葬型」は23.5%。「樹木葬型」が29.4%と多かった他、「和型」でも11.8%。「納骨壇型」で5.9%という回答があった。

他方、「承継者に迷惑をかけたくない」場合、「合葬型」は26.7%。「樹木葬型」が33.3%と多かった点、「承継者がいない」場合と変わらない、というか、ほぼ比率が類似している。一方、「和型」や「納骨壇型」への回答がなかった。これらに対する「回答」分については、「無回答」の増加（「23.5%」から「33.3%」）に転じている様に窺える。

問6-2 前問で聞いたことがあり、将来検討する、現在検討している、その他を回答した方、そのように考えた理由(1位)
 ※ クロス集計:「承継する者がいないから(22回答)」と「迷惑を掛けたくないから(22回答)」それぞれについて
 問7-3「前問で天城霊園から改葬(墓じまい)する予定はない以外を選んだ方、その場合どのような形態を選ぶか」をクロス
 ○ 天城霊園からの改葬を検討している方、その場合どのような形態を選ぶか(墓じまいを検討している理由が承継者がいない方)

和型 埋蔵施設	2	11.8%
合葬型 埋蔵施設	4	23.5%
納骨壇型 埋蔵施設	1	5.9%
芝生・洋型 埋蔵施設	1	5.9%
樹木葬型 埋蔵施設	5	29.4%
無回答	4	23.5%
合計	17	100.0%

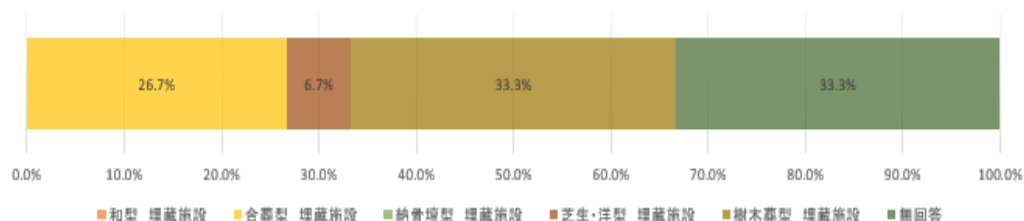
天城霊園からの改葬を検討している方、その場合どのような形態を選ぶか
 (墓じまいを検討している理由が承継者不在の方)



○ 改葬を検討している方、その場合どのような形態を選ぶか(墓じまいを検討している理由が承継者に迷惑をかけたくない方)

和型 埋蔵施設	0	0.0%
合葬型 埋蔵施設	4	26.7%
納骨壇型 埋蔵施設	0	0.0%
芝生・洋型 埋蔵施設	1	6.7%
樹木葬型 埋蔵施設	5	33.3%
無回答	5	33.3%
合計	15	100.0%

天城霊園からの改葬を検討している方、その場合どのような形態を選ぶか
 (墓じまいを検討している理由が承継者に迷惑をかけたくない方)



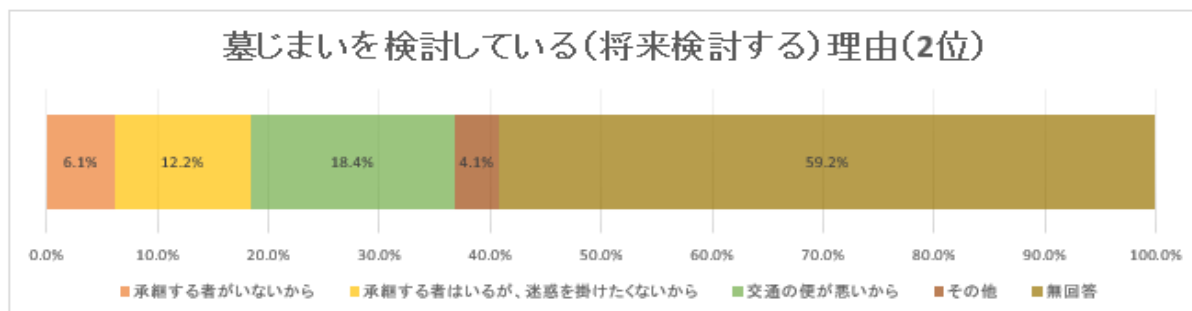
ここでは、第1位希望以下についても、その回答に変遷が認められるのか確認する意味も含めて設問、尋ねた。しかし、結果としては、第1位希望では5.9%に過ぎなかった「無回答」の割合が第2位希望では59.2%。第3位希望では75.5%と大きく増加する。この傾向は、既述の「■問12-2 承継者(継承者)がいないなどの場合に選ぶ形態■(続き)」 「■問12-3 今後、市が整備すべき(と思うお墓の形態)■(続き)」 「■問12-4 今後、市以外の民間が整備すべき(と思うお墓の形態)■(続き)」などでもみられた傾向である。

従って、前述したことが、ここでも踏襲出来る。つまり、「お墓」に対して意識が「多様化している」と喧伝されるが、内実(現実)はひとつ目を選択(ここでは「第1位希望」)に対し、「それが選択出来ない場合の選択」が回答者のなかで準備されていない。これは提供者側の課題でもある。つまりは「納骨堂」と見紛う施設を「合葬型」。施設の内実が「合葬型」でも外見のデザインが樹木があしらった「樹木葬型」。今後、提供する側は施設の形状と運用・主に焼骨の管理方法・について「分かりやすい・整理された」説明・提示が求められると思料される。

【天城霊園使用者】

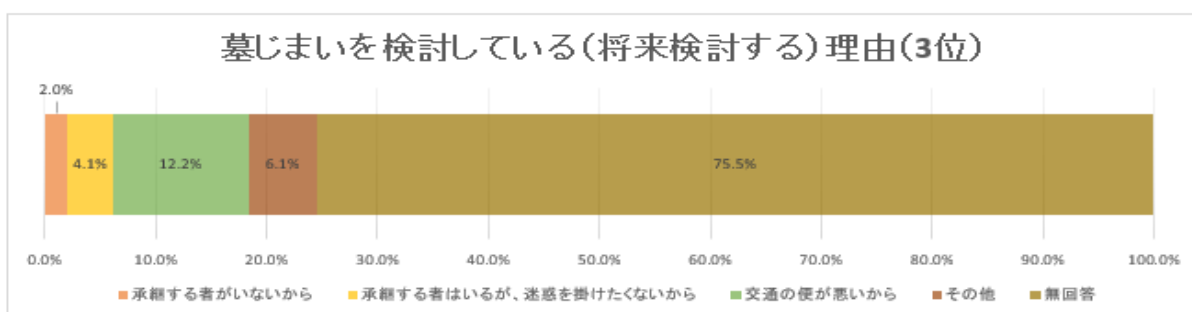
問6-2 前問で聞いたことがあり、将来検討する、現在検討している、その他を回答した方、そのように考えた理由(2位)

承継する者がいないから	3	6.1%
承継する者はいるが、迷惑を掛けたくないから	6	12.2%
交通の便が悪いから	9	18.4%
その他	2	4.1%
無回答	29	59.2%
合計	49	100.0%



問6-2 前問で聞いたことがあり、将来検討する、現在検討している、その他を回答した方、そのように考えた理由(3位)

承継する者がいないから	1	2.0%
承継する者はいるが、迷惑を掛けたくないから	2	4.1%
交通の便が悪いから	6	12.2%
その他	3	6.1%
無回答	37	75.5%
合計	49	100.0%



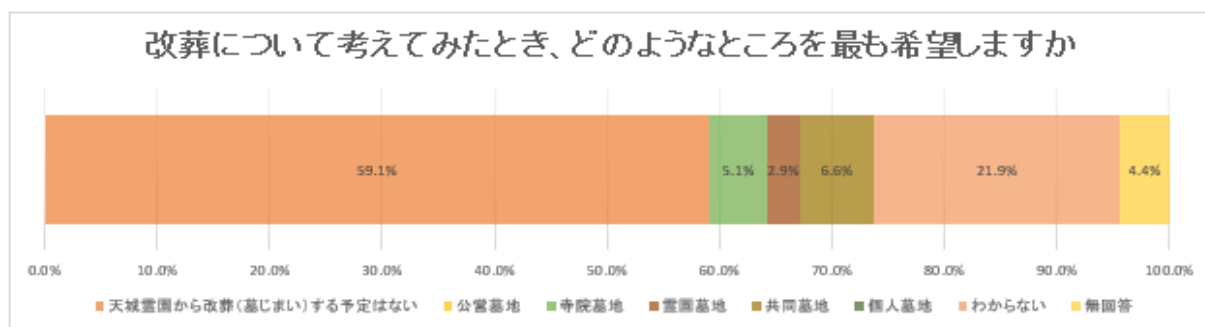
■(天城霊園から)改葬を考えているか・改葬先は(経営主体)■

先ほど前掲げた「■「墓じまい」を聞いたことがあるか・検討している理由■」では、『将来考えている』『現在考えている』を合わせると29.9%。ほぼ3割。相当程度『高い』値である」と述べた。ここでは更に直截的に(天城霊園からの)「改葬」の予定の可否について尋ねている。「天城霊園から改葬(墓じまい)する予定はない」は59.1%にとどまり、更に天城霊園からの改葬が想定される結果となった(うち、「わからない」は30件、21.9%を占めているが)。

具体的に改葬先となる墓地を回答したのは、「寺院墓地」7件。「霊園墓地」4件。「共同墓地」9件であった。前述した「■お墓を求める場合は「どのような処(経営主体)」か■」でも触れた通り「霊園墓地」とは「事業型墓地」(「これからの墓地等の在り方を考える懇談会」報告書 平成10年 厚生省生活衛生局)のこと。アンケートでは膾炙された「霊園墓地」等の表記がなされたりするが、「(墓地を使用する際に)信者であることが前提」の場合と「信者であることなど、厳密な前提条件がない」場合の分け方で「寺院墓地」と「霊園墓地」「共同墓地」に大別されることもある。この場合、「寺院墓地」45%。「霊園墓地」「共同墓地」で55%となる。

問7-2 改葬について考えてみたとき、どのようなところを最も希望しますか

天城霊園から改葬(墓じまい)する予定はない	81	59.1%
公営墓地	0	0.0%
寺院墓地	7	5.1%
霊園墓地	4	2.9%
共同墓地	9	6.6%
個人墓地	0	0.0%
わからない	30	21.9%
無回答	6	4.4%
合計	137	100.0%



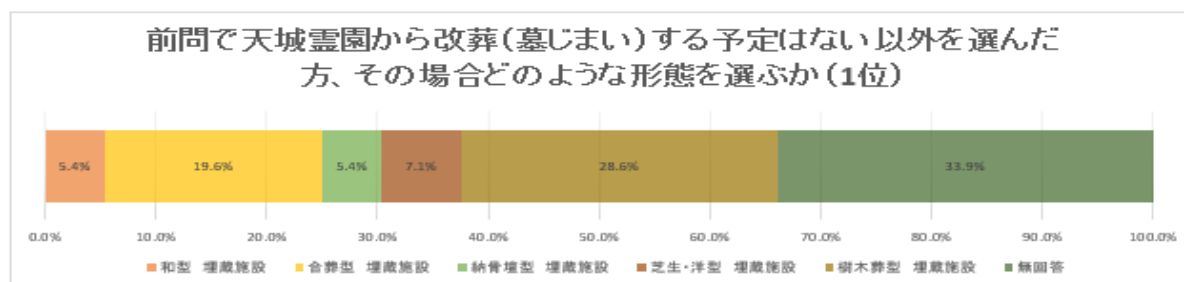
■改葬を考えている場合は「どのような形態」を選ぶか■

ここでは「問7-2」「改葬について考えてみたとき、どのようなところを最も希望しますか」という設問に対して「天城霊園から改葬(墓じまい)する予定はない」81件、59.1%以外の回答以外のもの56件について、「■お墓を求める場合は「どのような形態」を選ぶか■」の結果とのクロス集計を行なった。第1希望では「合葬型」が19.6%。「樹木葬型」は28.6%であった。第1位希望以下についても、回答に変遷が認められるのか確認する意味も含めて設問した。しかし、結果としては、第1位希望でも33.9%が「無回答」。第2位希望で60.7%。第3位希望は80.4%と大きく増加する。この傾向は前述した「■お墓を求める場合は「どのような形態」を選ぶか■(続き)」などよりも顕著である。従って、前述したことが、ここでも踏襲出来る。

■改葬を考えている場合は「どのような形態」を選ぶか■

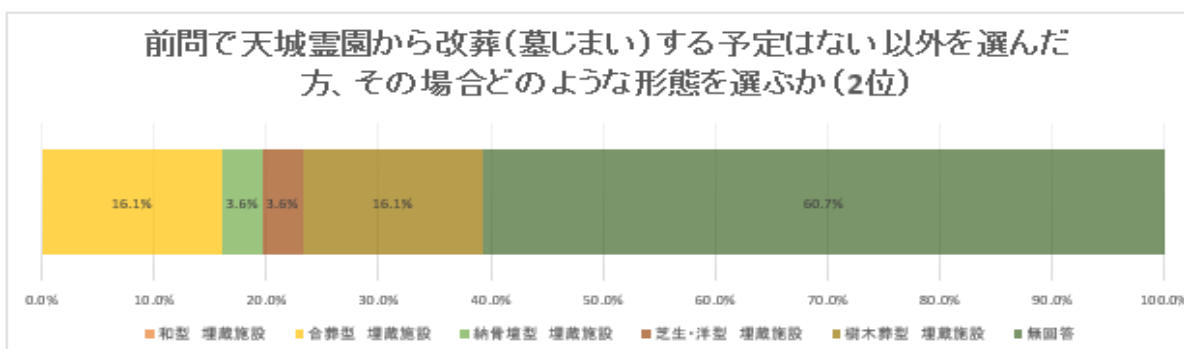
問7-3 前問で天城霊園から改葬(墓じまい)する予定はない以外を選んだ方、その場合どのような形態を選ぶか(1位)

和型 埋葬施設	3	5.4%
合葬型 埋葬施設	11	19.6%
納骨壇型 埋葬施設	3	5.4%
芝生・洋型 埋葬施設	4	7.1%
樹木葬型 埋葬施設	16	28.6%
無回答	19	33.9%
合計	56	100.0%



問7-3 前問で天城霊園から改葬(墓じまい)する予定はない以外を選んだ方、その場合どのような形態を選ぶか(2位)

和型 埋葬施設	0	0.0%
合葬型 埋葬施設	9	16.1%
納骨壇型 埋葬施設	2	3.6%
芝生・洋型 埋葬施設	2	3.6%
樹木葬型 埋葬施設	9	16.1%
無回答	34	60.7%
合計	56	100.0%



問7-3 前問で天城霊園から改葬(墓じまい)する予定はない以外を選んだ方、その場合どのような形態を選ぶか(3位)

和型 埋葬施設	1	1.8%
合葬型 埋葬施設	5	8.9%
納骨壇型 埋葬施設	2	3.6%
芝生・洋型 埋葬施設	1	1.8%
樹木葬型 埋葬施設	2	3.6%
無回答	45	80.4%
合計	56	100.0%

